DevOperation Platform

利用マニュアル

第 2.1 版

株式会社野村総合研究所
クラウドサービス事業本部

はじめに

- 本書は、DevOperation Platform(以下、DevOP)が提供するサービス内容及びサービスレベル、その他利用上の注意事項等の情報をまとめたものです。
- 本書は、DevOP を利用する前に一読下さい。なお、万一ご不明な点や誤り、記載漏れなど、お気づきの点がございましたら弊社までお知らせ下さい。
- 本書に記載した内容は予告無く変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断でコピーすることは法律で禁止されています。
- 本誌で引用の会社名・製品名は一般にそれぞれの会社の商標、もしくは登録商標です。なお、本誌中では、™、® マークなどは明記していません。

1 共通画面

共通画面

1.1 共通画面

1 章［共通画面］目次

1　共通画面 1-1

1.1 共通画面 1-3
1.1.1ログイン画面の利用方法 1-3
1.1.2初回ログイン時に実施する操作 1-4
1.1.3 トップメニュー画面の利用方法..... 1-6

1.1　共通画面

1.1.1　ログイン画面の利用方法

- ログイン画面

  ユーザー名、パスワードを入力し［ログイン］ボタンにてログインします。

  ※誤ったパスワードを 5 回入力するとアカウントロックされます。

  アカウントロックなど、ログインができない場合はテナント管理者へ状況を確認してください。

図 1-1 ログイン画面

1.1.2 初回ログイン時に実施する操作

- DevOP をご利用いただく上で、初回ログイン時にのみ、全てのアカウントで下記の［API トークン］発行手順を実施していただく必要があります。

- API トークン発行手順
  1. トップメニュー画面右上の［ ］ボタンを押下します。
  2. API トークン発行を行う対象のドメインが選択されていることを確認し、［API トークン発行］ボタンを押下します。

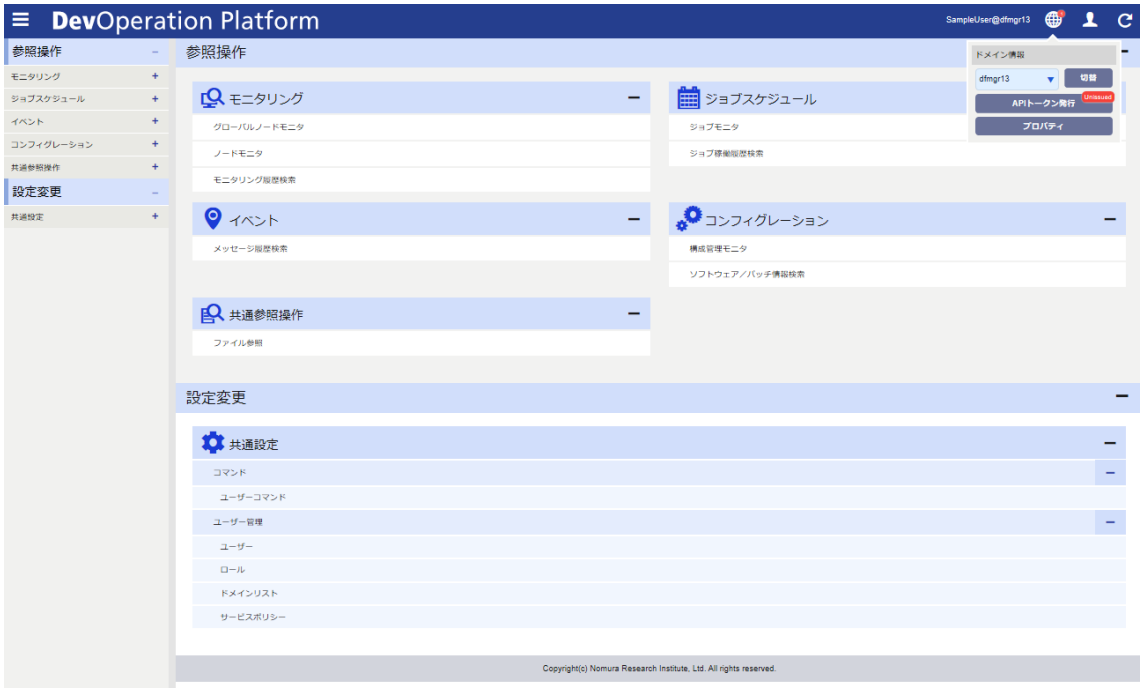


図 1-2 API トークン発行画面への遷移方法

3. API トークン発行画面に遷移後、表示されているドメインの千手ユーザーに対応する千手ブラウザのパスワードをパスワード欄に入力し、［OK］ボタンを押下します。

図 1-3 API トークン発行画面

4. API トークンの発行に成功するとトップメニュー画面に戻り、地球儀アイコンは「 」が表示されます。

! 複数ドメインの情報参照権限がある WEB アカウントの場合は、全てのドメインに対し、API トークン発行手順を実施する必要があります。ドメインの切り替え方法については、下記の［ドメイン切り替え］手順をご確認ください。

- ドメイン切り替え手順

1. ［ ］ボタンを押下します。

2. プルダウンリストより切り替えるドメインを指定し、［切替］ボタンを押下します。

1.1.3 トップメニュー画面の利用方法

- ログインに成功するとトップメニュー画面が表示されます。

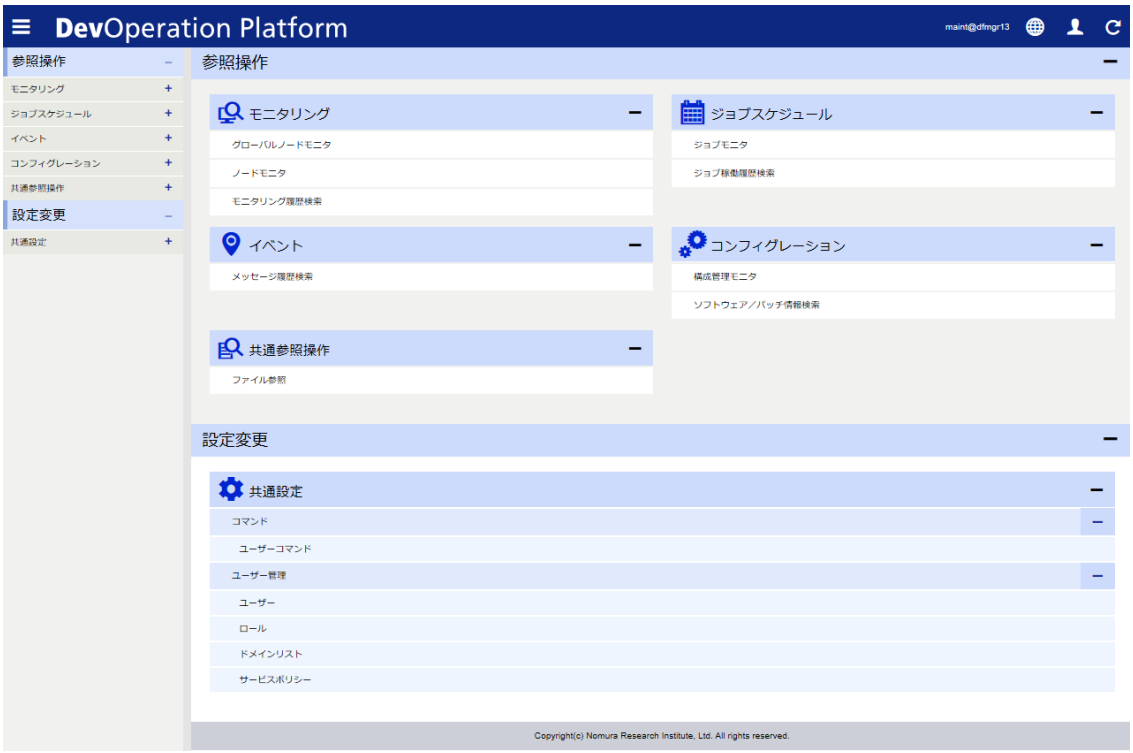


図 1-5 DevOperation Platform のトップメニュー

- 参照操作

① グローバルノードモニタメニュー

ドメインに所属する複数のノードの稼働状況を一度に確認することができます。

② ノードモニタメニュー

ドメインが監視しているノードの詳細情報を確認することができます。

③ モニタリング履歴検索メニュー

千手ブラウザより蓄積設定を行った監視タスクの監視結果を参照することができます。

④ ジョブモニタメニュー

千手システムで稼働しているジョブスケジュール実行情報をランチャートとして、前後関係や各オブジェクトのステータスを確認することができます。

⑤　ジョブ稼働履歴検索メニュー

ジョブの稼働履歴(正常終了／異常終了／スキップ終了)を検索して確認することができます。

⑥　メッセージ履歴検索メニュー

千手メッセージの発生状況を検索して確認することができます。

⑦　ソフトウェア/パッチ情報検索メニュー

千手ブラウザで収集設定を行ったノードのソフトウェア/パッチ情報を参照することができます。

⑧　構成管理モニタメニュー

千手コンフィグレーションで構成管理項目として定義した管理対象ノードの構成情報・設定情報、ログ、任意のコマンド実行結果などの取得指示や、千手構成ファイルサーバへの転送、ダウンロードができます。

⑨　ファイル参照メニュー

ドメインリストにて各ノードで参照可能なパスを設定することで、参照可能範囲内に存在するファイルを DevOP WEB から閲覧することができます。

- 設定変更

設定変更の各メニューはテナント管理者のみが表示される項目です。

①　サービスポリシーメニュー

作成するアカウントで使用できる参照操作をポリシーとして作成・変更・削除することができます。

②　ドメインリストメニュー

作成するアカウントで参照可能な千手マネージャをドメインリストとして作成・変更・削除することができます。

③　ロールメニュー

サービスポリシーとドメインリストの組み合せをロールとして作成・変更・削除することができます。

④　ユーザーメニュー

作成したロールを使用してアカウントの作成・変更を行うことができます。

- その他

① DevOperation Platform

全ての画面で表示される[DevOperation Platform]を押下することで、どの画面からもトップメニュー画面へ遷移することができます。

② ドメイン情報

「」ボタンにて、ドメイン情報の確認/切替えを行うことができます。

※本サービスではプロパティボタンは使用できません。

③ ユーザー情報

「」ボタンにて、ログイン中のアカウント情報の確認、ロールの切替え、パスワード変更、ログアウトをすることができます。

④ 画面の更新

「」ボタンにて、現在の表示されている画面を最新情報へ更新することができます。

⑤ 参照アカウント／千手ドメイン情報

現在参照しているアカウント名とドメイン名を「アカウント名@千手ドメイン名」形式で表示します。

図 1-6 DevOperation Platform のトップメニュー

2 ユーザー管理

ユーザー管理

2.1 ユーザー管理

2 章［ユーザー管理］目次

2　ユーザー管理 2-1

2.1 ユーザー管理 2-3
2.1.1 ユーザー管理用語 2-3
2.1.2 ユーザー管理概要 2-4
2.1.3 サービスポリシーの作成 2-5
2.1.4 ドメインリストの作成 2-9
2.1.5 ロールの作成 2-13
2.1.6 ユーザーの作成 2-16
2.1.7 ユーザーの削除 2-20
2.1.8 ユーザーのインポート/エクスポート 2-21

2.1　ユーザー管理

2.1.1 ユーザー管理用語

ユーザー管理用語説明

項番	用語	役割
1	WEB アカウント	WEB コンソールにログインするためのアカウントです。 管理者アカウントと、一般アカウントの 2 種類が存在します。
2	管理者アカウント	WEB コンソールの管理者用アカウントです。 サービス利用時に、サービス提供者より 1 つ割り当てられます。「同一権限の管理者アカウント」／「一般アカウント」の作成・編集が可能です。
3	一般アカウント	WEB コンソールの一般アカウントです。 WEB アカウントの作成・編集はできません。
4	千手ブラウザアカウント	千手ブラウザにログインする際に用いるアカウントです。 WEB コンソールのアカウントでは、千手ブラウザアカウントに付与されているユーザースコープ情報を用いることにより情報の参照範囲を制御できます。
5	サービスポリシー	利用機能を制御するための定義です。 千手メッセージは参照できないが、モニタリング履歴・ジョブ稼働履歴・ソフトウェア/パッチ情報が参照できるといった制御がユーザー毎に可能となります。
6	ドメインリスト	参照可能とする千手マネージャを制御するための定義です。 情報を参照する際に、どのユーザースコープ(千手ブラウザアカウント)を利用するかについてもドメインリストに設定します。
7	ロール	サービスポリシーとドメインリストで構成される権限です。 WEB アカウントにロールを割り当てることにより、ユーザー毎の権限制御が行えます。 ロールには「管理者ロール」と「一般ロール」の 2 種類が存在します。

2.1.2ユーザー管理概要

- 管理者アカウントは、サービス提供者が 1 アカウント分発行いたします。
- 管理者アカウントを用いて、管理者と同等の権限を持つ管理者アカウント、一般アカウントを作成することができます。一般アカウントではアカウントを作成することはできません。
- アカウント毎に接続可能とする千手マネージャ、利用可能機能を制限することができます。

WEB アカウント作成の流れ

項番	参照操作	役割
1	サービスポリシー作成	どの機能を利用可能とするかを定義したもの
2	ドメインリスト作成	どの千手マネージャの情報を参照可能とするかを定義したもの
3	ロール作成	サービスポリシーとドメインリストを組み合わせた定義
4	WEB アカウント作成	アカウントにロールを付与し、WEB アカウントを作成

2.1.3 サービスポリシーの作成

- 管理者アカウントに付与されているサービスポリシーの範囲内で、新規サービスポリシーを作成することができます。

- 管理者アカウントに付与されているサービスポリシーを使用してロールを作成することができます。

図 2-1 サービスポリシー設定画面

A) サービスポリシー新規作成

1. サービスポリシー設定画面より［新規作成］ボタンを押下します。

2. サービスポリシー名（必須）、説明（任意）を入力し、利用可能とする機能に対してチェックを入れます。

図 2-2 サービスポリシー新規作成画面

参照操作		
モニタリング	グローバルノードモニタ	グローバルノードモニタ機能が利用可能となります。
	ノードモニタ	ノードモニタ機能が利用可能となります。
	モニタリング履歴検索	監視結果の履歴が参照可能となります。
ジョブスケジュール	ジョブモニタ	ジョブモニタ機能が利用可能となります。
	ジョブ稼働履歴検索	ジョブの稼働履歴が参照照能となります。
イベント	メッセージ履歴検索	メッセージの履歴が参照可能となります。
コンフィグレーション	構成管理モニタ	構成管理モニタ機能が利用可能となります。
	ソフトウェア/パッチ情報検索	ソフトウェア/パッチ情報が参照可能となります。
共通参照操作	ファイル参照	ファイル参照機能が利用可能となります。
設定変更		
共通設定	ユーザー管理	「同一権限の管理者アカウント」／「一般アカウント」の作成・編集が可能となります。

3. 全ての設定が完了後、［OK］ボタンを押下しサービスポリシーを作成します。

! ［ユーザー管理］を使用可能としたロールが付与された一般アカウントでログインした場合でも、ユーザー管理メニューは表示されません。

! サービス提供者から提供されたサービスポリシーの内容は変更できません。

B) 変更

1. サービスポリシー設定画面より、変更対象のサービスポリシーにチェックを入れ、［変更］ボタンを押下します。

2. 設定内容が表示されたら、利用可能とする機能に設定を変更し、［OK］ボタンにて変更します。

C) 削除

1. サービスポリシー設定画面より、削除対象のサービスポリシーにチェックを入れます。

2. ［削除］ボタンにて削除します。

! 削除するサービスポリシーがいずれかのロールで使用されている場合は、削除できません。

2.1.4 ドメインリストの作成

- 参照可能とする千手マネージャを定義します。
- 管理者は参照許可されている千手マネージャの範囲内で、ドメインリストを作成することができます 。
- 自身に付与されているドメインリストを利用して、ロールを作成することができます。
- 千手ブラウザアカウントに設定されているユーザースコープ機能を用いることにより、参照可能とするノード情報を制御することができます。

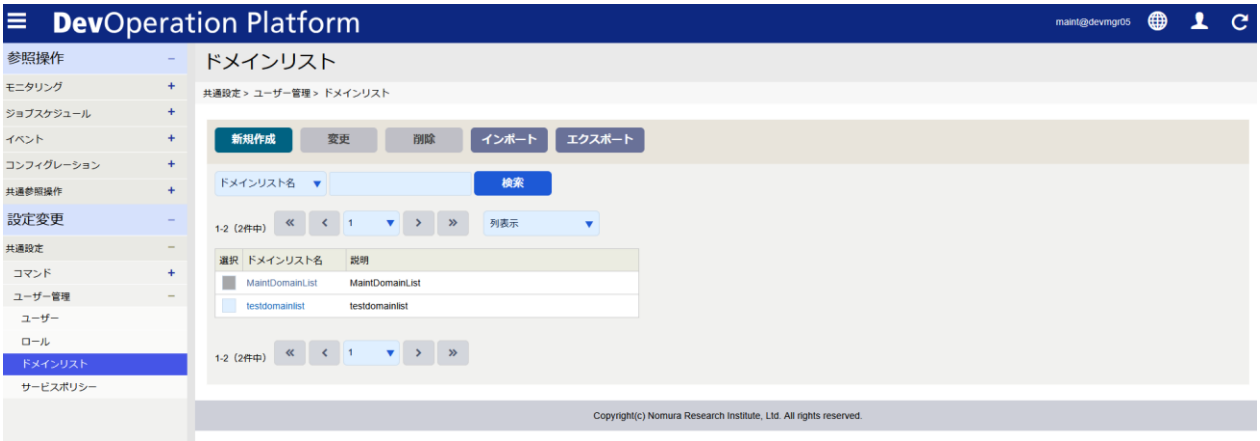


図 2-3 ドメインリスト設定画面

A) ドメインリストの新規作成

1. ドメインリスト設定画面より［新規作成］ボタンを押下します。
2. ドメインリスト名（必須）、説明（任意）を入力します。

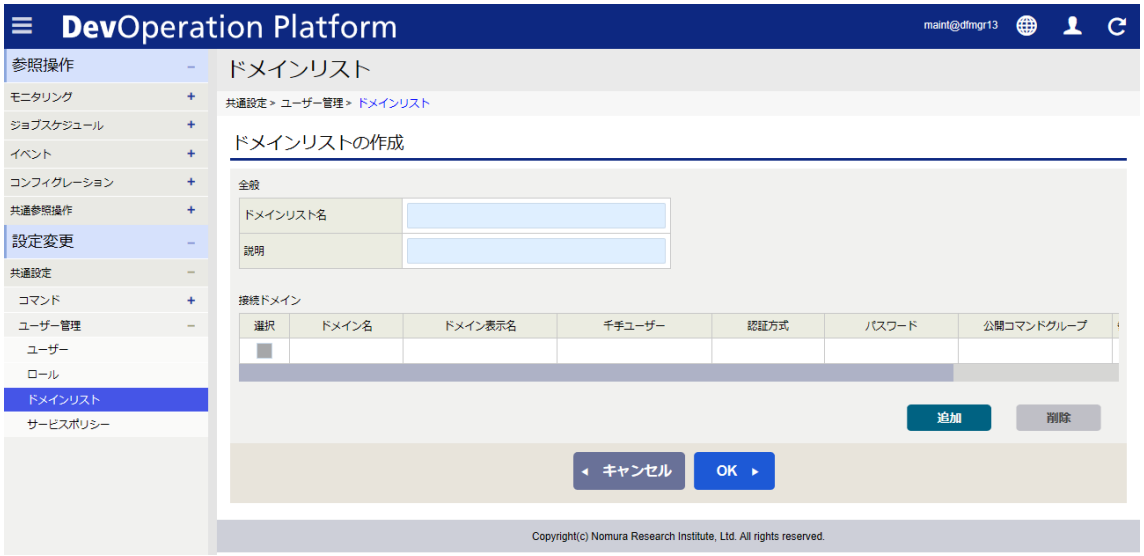


図 2-4 ドメインリスト新規作成画面

3. ［追加］ボタン押下後、候補一覧より参照可能とする千手マネージャに対してチェックを入れ、［OK］ボタンを押下します。

図 2-5 ドメイン追加画面

4. 千手ユーザー欄に千手ブラウザアカウント、パスワード欄にパスワードを入力します。認証方式は「パスワード」を指定します。

5. ドメイン表示名欄は任意で設定します。ドメイン表示名に設定した内容は、各履歴検索画面などのドメイン欄に表示されます。設定しない場合はドメイン名欄の内容が表示されます。

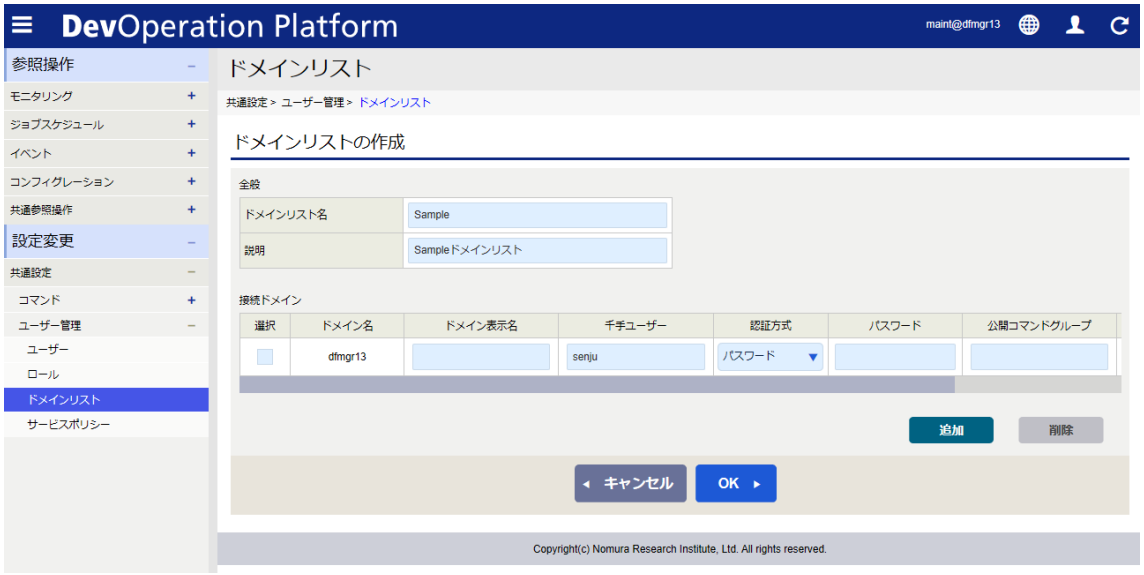


図 2-6 ドメインリスト作成画面

接続ドメイン（追加ボタンより指定可能なドメイン一覧が表示されます）	
ドメイン名	選択したドメイン名が表示されます。
ドメイン表示名	ドメイン名に対する任意の表示名を入力します。（省略可）
千手ユーザー	千手ブラウザアカウントを入力します。
認証方式	「パスワード」を指定します
パスワード	千手ブラウザアカウントのパスワードを入力します。
参照可能フォルダ／ファイル	ファイル参照機能を使用する場合に各ノードで参照可能とするフォルダ／ファイルをフルパスで指定します。詳細な設定方法は［11.1.3 ファイル参照範囲の設定方法］をご確認ください。
デフォルト	DevOP ログイン時に参照対象とする千手ドメインを指定します。

! サービス提供者から提供されたドメインリストの内容は変更できません。

6. 全ての設定が完了後、［OK］ボタンを押下しドメインリストを作成します。

B) 変更

1. ドメインリスト設定画面より、変更対象のドメインリストにチェックを入れ、［変更］ボタンを押下します。
2. 設定内容が表示されますので、設定を変更し、［OK］ボタンにて変更します。

C) 削除

1. ドメインリスト設定画面より、削除対象のドメインリストにチェックを入れます。
2. ［削除］ボタンにて削除します。

! 削除するドメインリストがいずれかのロールで使用されている場合は、削除できません。

2.1.5 ロールの作成

- 「サービスポリシー」と「ドメインリスト」を組み合わせてロールを作成します。
- ロールをアカウントに設定することにより、対象アカウントが利用できる機能や参照可能とするドメインを制御することができます。
- ロールへ設定するドメインリストは「管理者自身に付与されているドメインリスト」と「管理者が作成したドメインリスト」から選択することができます。
- ロールへ設定するサービスポリシーは「管理者自身に付与されているサービスポリシー」と「管理者が作成したサービスポリシー」から選択することができます。

図 2-7 ロール設定画面

A) ロールの新規作成

1. ロール設定画面より［新規作成］ボタンを押下します。

2. ロール名（必須）、説明（任意）を入力します。カテゴリは「User」で固定です。

3. ドメインリストの虫眼鏡アイコンより設定するドメインリストを選択します。
4. サービスポリシーの虫眼鏡アイコンより付与するサービスポリシーを選択します。
5. ホームページの選択リストよりログイン時の初期表示画面を選択します。

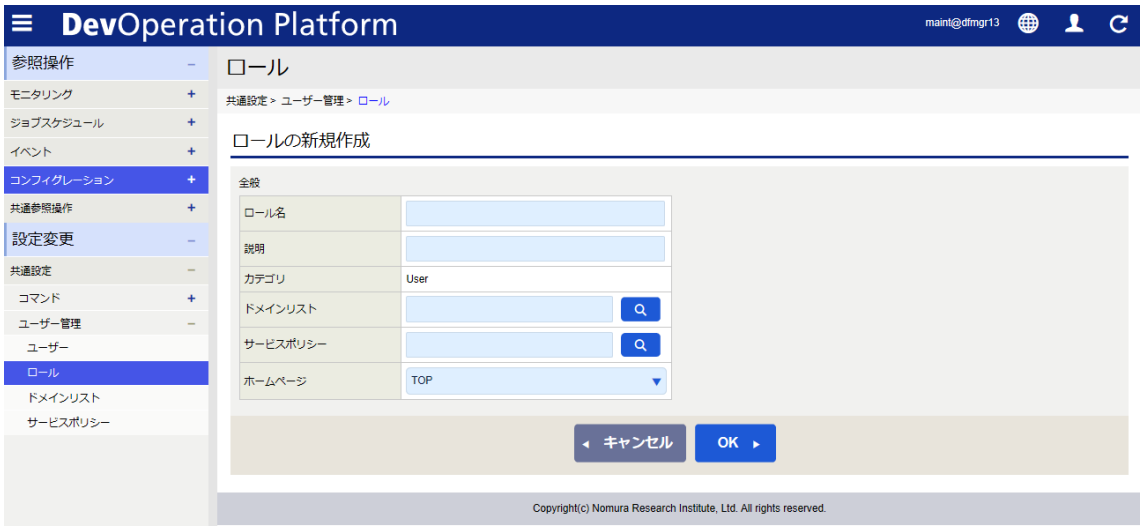


図 2-8 ロール新規作成画面

6. 全ての設定が完了後、［OK］ボタンを押下しロールを作成します。

! カテゴリは、管理者アカウント用は「Admin」、一般アカウント用は「User」となります。

! 管理者が作成できるロールはユーザロールのみとなります。

! サービス提供者から提供されたロールの内容は変更できません。

B) 変更

1. ロール設定画面より、変更対象のロールにチェックを入れ、［変更］ボタンを押下します。

2. ドメインリスト、サービスポリシーの設定変更後、［OK］ボタンにて変更します。

C) 削除

1. ロール設定画面より、削除対象のロールにチェックを入れます。

2. ［削除］ボタンにて押下後 、[OK] ボタンで削除できます。

2.1.6 ユーザーの作成

- WEB コンソールへのログインアカウントを作成します。
- WEB アカウントを作成しロールを割り当てることで、対象アカウントが利用できる機能、参照可能となる千手マネージャ情報の権限制御を行います。
- WEB アカウントには「管理者自身に付与されている管理者ロール」と「管理者が作成した一般ロール」を付与することができます。
- 参照・編集が可能なアカウントは管理者自身と同じ権限の管理者が作成したアカウントのみです。

図 2-9 ユーザー設定画面

A） WEB アカウントの新規作成

1． ユーザー画面より、［新規作成］ボタンを押下します。

2． ユーザー名（必須）、説明（任意）を入力します。

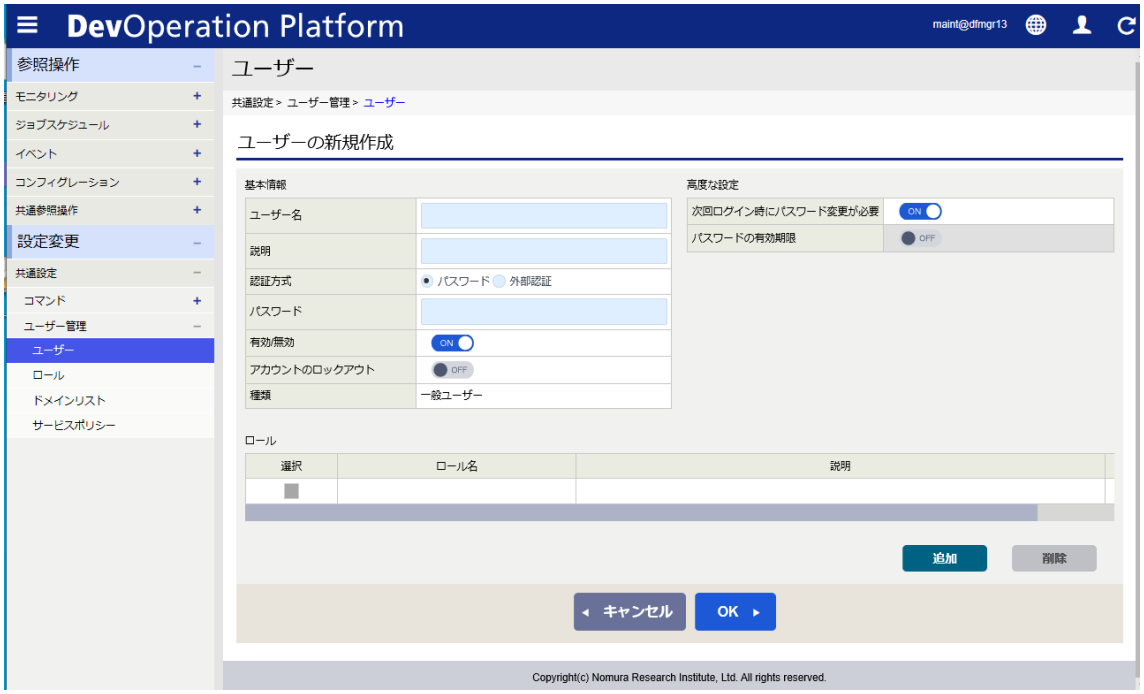


図 2-10 ユーザー新規作成画面

3.　その他の機能は下記の表を参照し、設定します。

基本情報	
認証方式	パスワード：ログイン情報に基づいて認証を実施します。 外部認証：全社 AD 認証による認証を実施します。
パスワード	ユーザーアカウントのパスワード設定です。認証方式で「パスワード」を設定した場合は必須項目です。 パスワードは 7～127 バイト以内で、英大文字、英小文字、数字、記号のうち 2 種類を使用して設定します。
有効/無効	ON：アカウントの有効設定です。 OFF：アカウントの無効設定です。
アカウントのロックアウト	ON：ログインを拒否します。 OFF：ログインを許可します。
種類	「一般ユーザー」固定です。
高度な設定	
次回ログオン時にパスワード変更が必要	対象アカウントが次回ログイン時にパスワード変更をさせる場合に ON とします。認証方式が「外部認証」の場合は OFF 設定となります。
パスワードの有効期限	アカウントに設定されているパスワードに有効期限を設定するかを指定します。認証方式で「外部認証」にしている場合は OFF の設定となります。 ON：有効期限：90 日 OFF：無期限
ロール（追加ボタンより指定可能なロール一覧が表示されます）	
ロール名	指定したロール名が表示されます。複数指定することができます。
説明	指定したロールの説明が表示されます。

4.　全ての設定が完了後、［OK］ボタンを押下しロールを作成します。

外部認証を選択した場合は、全社 AD 認証のみとなります。

ログイン時、パスワード入力に 5 回失敗するとアカウントロックされます。ロック解除は管理者アカウントにて対象アカウントを選択し、変更設定よりアカウントのロック解除を実施してください。

ロールを複数割り当てた場合、ログイン直後はデフォルトに指定したロールでの操作が可能となります。

- ロールの切替手順

1. 右上の「 」ボタンを押下します。
2. プルダウンリストから切り替えるロールを選択し、［切替］ボタンを押下します。

図 2-11 ユーザー新規作成画面

B) 変更

1. ユーザー管理画面より、変更対象のユーザーにチェックを入れます。
2. ［変更］ボタンにて設定内容が表示されます。
3. ユーザー設定、ロール内容を変更後、［OK］ボタンにて変更します。

2.1.7 ユーザーの削除

- WEB コンソールへのログインアカウントを削除します。

  ! ログイン中のアカウントは削除出来ません。

図 2-12　ユーザー設定画面

図 2-13　ユーザー削除画面

2.1.8 ユーザーのインポート/エクスポート

- インポート機能は、指定ファイルからユーザー情報を登録・変更をすることができます。
- エクスポート機能はユーザー情報をファイル出力します。登録された全ユーザー、または選択されたユーザー情報が対象です。

2.1.8.1 ユーザーのインポート

A) インポートファイル作成

インポートファイルのフォーマットは CSV 形式です。エクスポートファイルのフォーマットを参考にして作成してください。

インポートファイルの各項目の指定方法は下記表を参照してください。

! インポートファイルの１行目はヘッダー行のため、２行目からユーザー情報を記載してください。

インポートファイル指定方法

項目	省略	値		制限事項
WEB ユーザー名	×	任意		64 文字以内 半角英数字、'-'、'_'利用可
ユーザー説明	○	任意		256 文字以内 タブ、スラッシュ、シングルクォーテーション、ダブルクォーテーション以外の文字
認証方式	×	外部認証	1	
		パスワード	0	
パスワード	△	任意		認証方式がパスワードの場合、必須 7 文字以上 127 文字以内
初回ログイン時にパスワード変更必要フラグ	△	有効	1	認証方式がパスワードの場合、必須
		無効	0	
アカウントロックフラグ	○	有効	1	
		無効	0	
無効化フラグ	○	有効	1	
		無効	0	
ロール 1(default)	○	任意		登録済みロールを指定
ロール 2	×	任意		
ロール 3	×	任意		
ロール 4	×	任意		
ロール 5	×	任意		

B) ファイルインポート

1. ユーザー画面より、［インポート］ボタンを押下します。

図 2-14 インポート確認画面

2. 作成したインポートファイルを指定して［開く］ボタンを押下します。
3. インポート確認画面が表示されるので、インポート内容に誤りが無いことを確認して［OK］ボタンを押下します。
4. インポート結果画面が表示されるので、区分表示が［OK］であることを確認します。

図 2-15 インポート結果画面

! 一度にインポート可能なユーザー数は 100 件です。

! ロール・ドメインリスト・サービスポリシーを新規作成することはできません。登録済みのロールを指定してください。

2.1.8.2 ユーザーのエクスポート

A) ユーザーエクスポート

1. ユーザー画面より［エクスポート］ボタンを押下し、任意のフォルダにユーザー情報ファイル［WebUserInfoReport.csv］を保存します。

図 2-16 エクスポート画面

! 特定のユーザー情報のみエクスポートする場合は、エクスポート対象ユーザーの選択にチェックを入れた上でエクスポートします。

3 グローバルノードモニタ

グローバルノードモニタ

3.1 グローバルノードモニタ

3 章［グローバルノードモニタ］目次

3　グローバルノードモニタ 3-1

3.1 グローバルノードモニタ 3-3
3.1.1 グローバルノードモニタ概要 3-3
3.1.2 利用方法 3-3

3.1　グローバルノードモニタ

3.1.1 グローバルノードモニタ概要

- ドメインに所属するノードの稼働状況を確認することができます。それぞれのノードの詳細情報ではなく、複数のノードの状態を一度に確認するためのツールです。

3.1.2 利用方法

A)　利用方法

1.　トップメニュー画面よりグローバルノードモニタメニューを押下します。

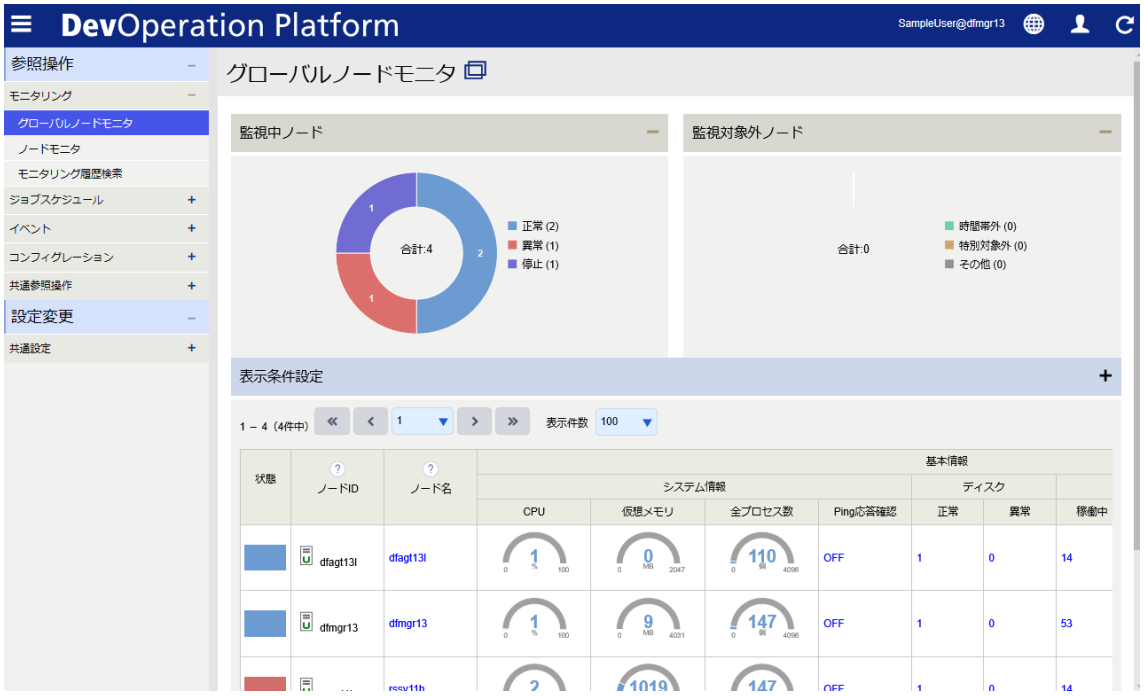


図 3-1　グローバルノードモニタ画面

複数ドメインの情報参照権限が付与されている WEB アカウントで、他ドメインのグローバルノードモニタ機能を利用する場合は、画面右上の「 」ボタンからドメインの切り替えを行う必要があります。

- 表示条件設定の「＋」を展開することで表示条件を指定することができます。

図 3-2 グローバルノードモニタ画面

- グローバルノードモニタ画面に表示されているノード名のリンクから、ノードモニタ画面へ遷移することができます。

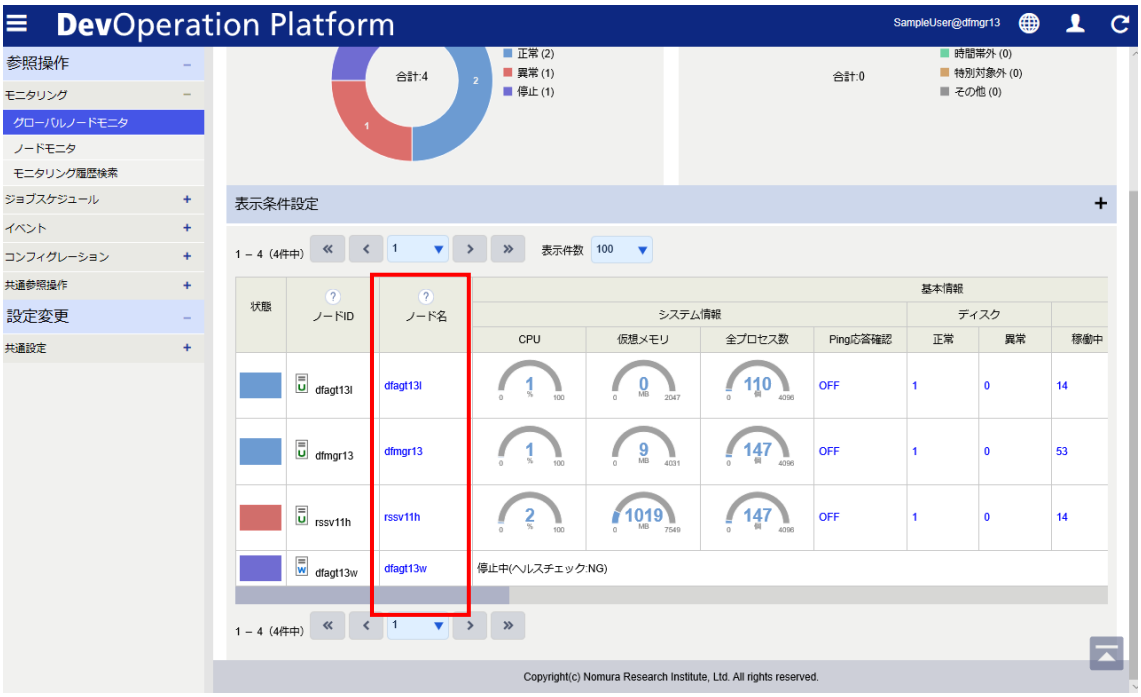


図 3-3 グローバルノードモニタ画面

B) 表示条件の保存方法

1. グローバルノードモニタ画面の表示条件設定より保存する表示条件を設定します。
2. 表示条件欄のリストより「(未設定)」の検索条件を選択します。
3. 条件名称欄に任意の検索条件名を入力し、［保存］ボタンを押下します。

! 表示条件は 1 アカウントにつき 10 個まで保存することができます。

C) 表示条件の削除方法

1. グローバルノードモニタ画面の表示条件設定より削除する表示条件を選択します。
2. ［削除］ボタンを押下します。

4 ノードモニタ

ノードモニタ

4.1 ノードモニタ

４章［ノードモニタ］目次

４　ノードモニタ 4-1

4.1 ノードモニタ 4-3
4.1.1 ノードモニタ概要 4-3
4.1.2 利用方法 4-3

4.1　ノードモニタ

4.1.1 ノードモニタ概要

- ドメインが監視しているノードの詳細情報を確認することができます。

4.1.2 利用方法

A)　利用方法

1.　トップメニュー画面よりノードモニタメニューを押下します。

図 4-1　ノードモニタ画面

複数ドメインの情報参照権限が付与されている WEB アカウントで、他ドメインのグローバルノードモニタ機能を利用する場合は 、画面右上の「 」ボタンからドメインの切り替えを行う必要があります。

- 参照するノードを切り替える場合は、ノード ID のプルダウンリストより任意のノード ID を指定します。

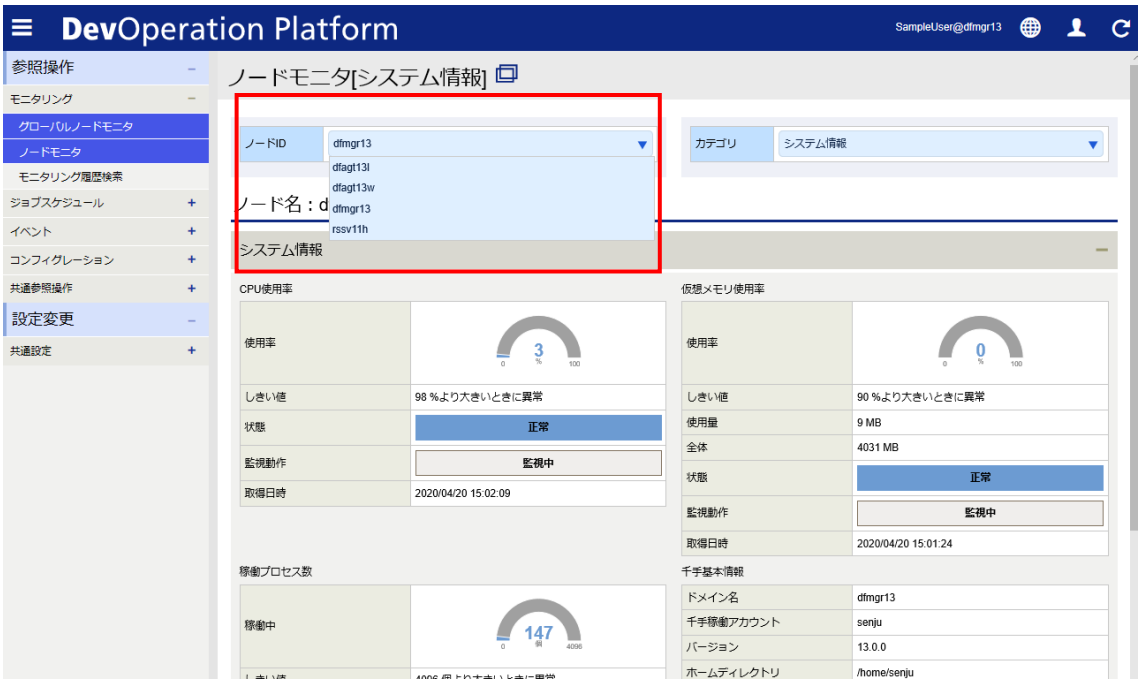


図 4-2 参照ノード切り替え画面

● 参照するカテゴリを変更する場合は、カテゴリのプルダウンリストより任意のカテゴリを指定します。

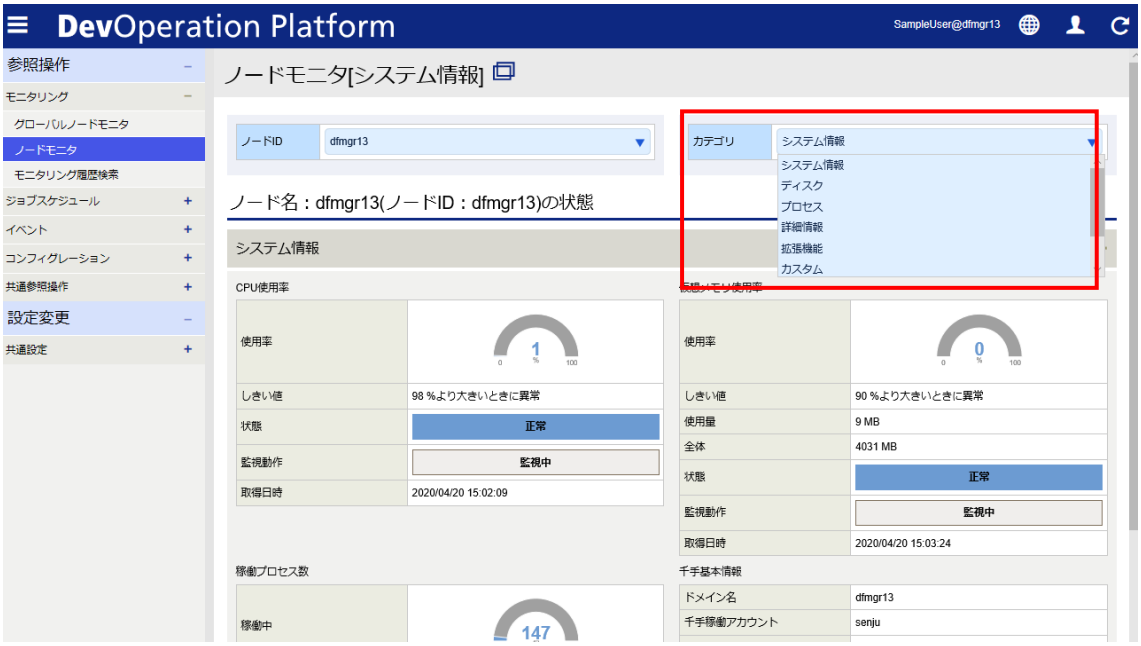


図 4-3 参照カテゴリ切り替え画面

B) 千手システムプロセスの表示

2. ノード ID のプルダウンリストより任意のノード ID を指定します。

3. カテゴリのプルダウンリストより［プロセス］を指定します。

4. 千手起動プロセス内の［システムプロセス表示］チェックを入れます。

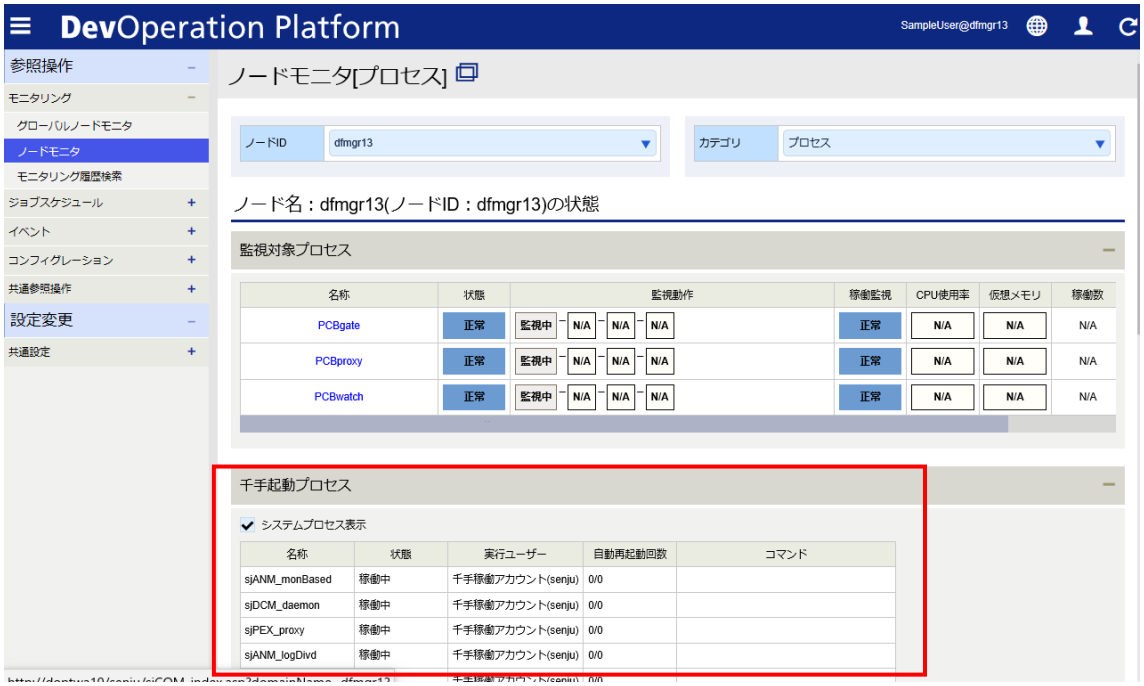


図 4-4 千手システムプロセスの表示画

5 モニタリング履歴検索

モニタリング履歴検索

5.1 モニタリング履歴検索

5 章［モニタリング履歴検索］目次

5　モニタリング履歴検索 5-1

5.1 モニタリング履歴検索 5-3
5.1.1 モニタリング履歴検索概要 5-3
5.1.2 利用方法 5-6

5.1　モニタリング履歴検索

5.1.1 モニタリング履歴検索概要

- 千手ブラウザより蓄積設定を行った監視タスクの監視結果を参照することができます。
- 「分サマリ」「時サマリ」「日サマリ」のデータは各履歴保持期間が異なり、初期設定値は下記の通りです。
  分サマリ：7 日間、時サマリ：40 日間、日サマリ：400 日間

! モニタリング履歴については、千手ブラウザ上で保存日数を指定する箇所が存在します。
保存期間は DevOP DB サーバと千手ブラウザの保存日数を比較し、保存期間が短い設定が優先されます。
保存期間の詳細は「12.1 各種履歴データ保存期間の変更」を参照してください。

- 千手ブラウザでの監視データ蓄積設定

A) 千手ブラウザでのシステム情報データ蓄積設定

1. ツリービューから、<ドメイン>→［ノードグループ］→［全体］→<監視結果を蓄積したいノード>のコンテキストメニューで、［プロパティ］を選択します。
2. ［システム情報］タブ→［高度な設定］を選択します。
3. システム情報の高度な設定のプロパティより蓄積したい監視タスクの履歴データの保存設定を行います。

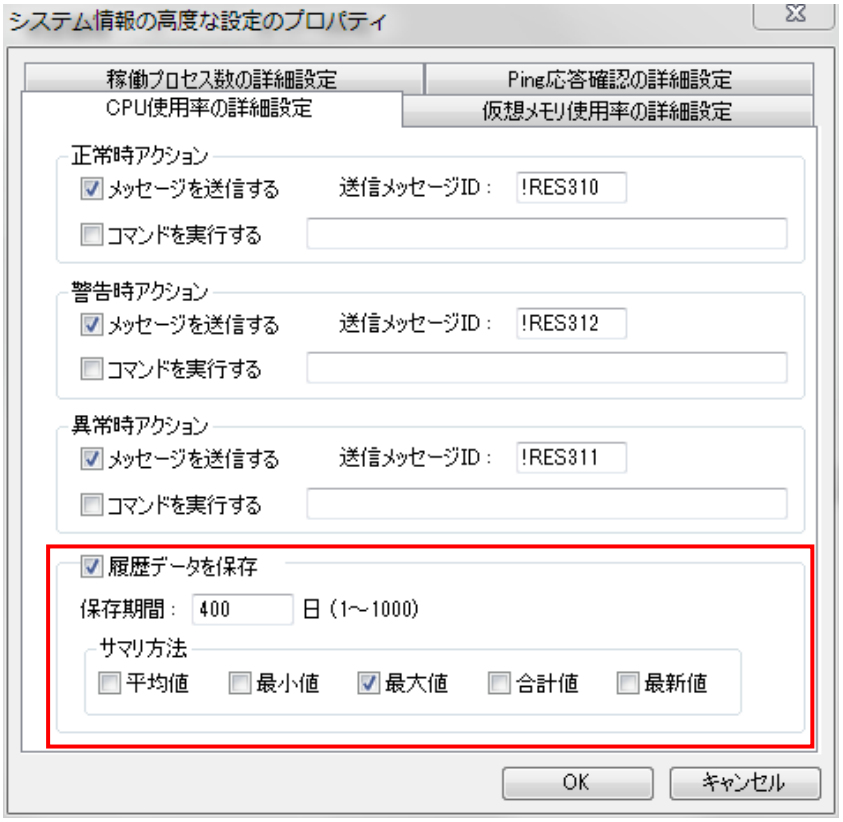


図 5-1 システム情報データ蓄積設定画面

B)　千手ブラウザでの詳細情報データ蓄積設定

1. ツリービューから、<ドメイン>→［ノードグループ］→［全体］→<監視結果を蓄積したいノード>のコンテキストメニューで、［プロパティ］を選択します。
2. ［詳細情報タブ］の監視項目欄より監視設定を行う監視項目を選択し追加を押下します。
3. 新規作成画面の詳細設定タブ内の履歴データ保存欄より履歴データの保存設定を行います。
   ※「ディスク」「プロセス」「拡張機能」タブについても同様な設定となります。

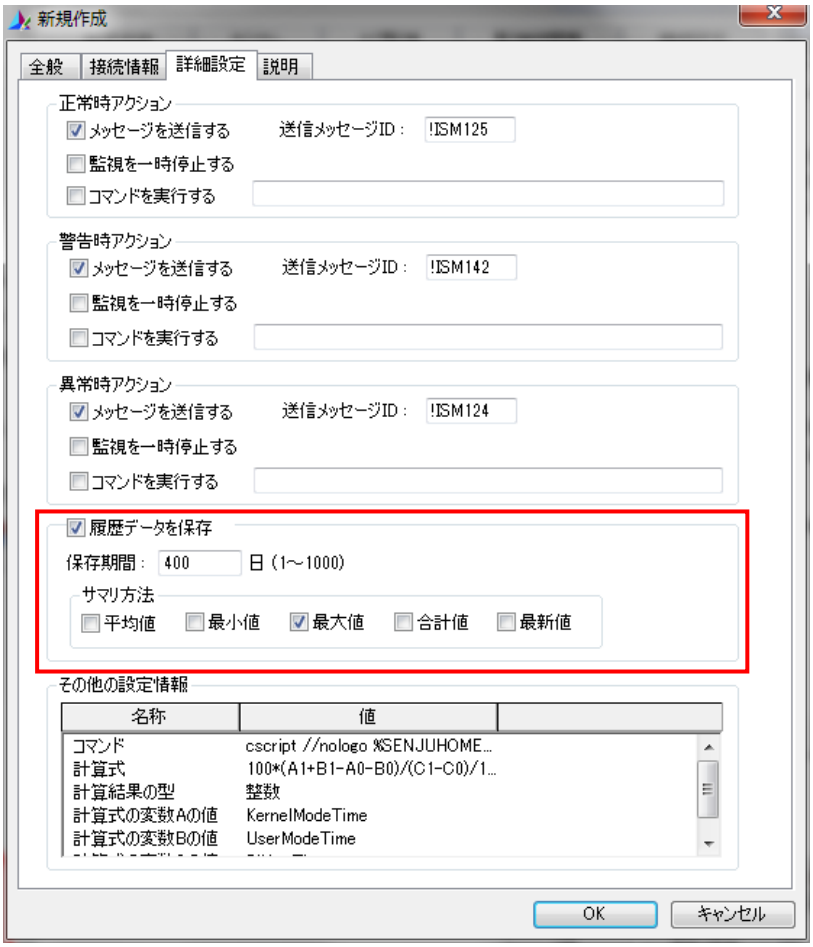


図 5-2 詳細情報データ蓄積設定画面

5.1.2 利用方法

C) 履歴検索方法

5. トップメニュー画面よりモニタリング履歴検索メニューを押下します。

6. モニタリング履歴検索画面が表示されたら、任意の検索条件を設定して［検索］ボタンを押下します。

図 5-3 モニタリング履歴検索画面

検索条件設定詳細情報

検索	
検索条件	デフォルト検索条件以外に、設定した検索条件を 1 アカウントにつき 10 個まで保存することができます。
ドメイン	アカウントに付与されているドメインリスト内で検索する千手マネージャを指定することができます。
取得日時	必須項目です。 取得日時の範囲は検索対象のデータ保存期間内を指定してください。 (日サマリ:400 日、時サマリ:40 日、分サマリ:7 日)
監視タスク ID	必須項目です。 対象ノードに設定した監視タスクを指定して検索することができます。 ※監視タスク ID の指定方法については B) 監視タスク ID の指定方法参照してください
値で検索	文字列や数値を指定してを指定して検索することができます。
検索対象	「分サマリ」、「時サマリ」、「日サマリ」を指定して検索することができます。
状態	正常：状態が正常の監視タスクを指定して検索することができます。 異常：状態が異常の監視タスクを指定して検索することができます。 警告：状態が警告の監視タスクを指定して検索することができます。
監視対象名	監視対象名を指定して検索することができます。 また、部分一致での検索もできます。
サマリ方法	検索結果のサマリ方法を平均値、最小値、最大値、合計値、最新値を指定して検索することができます。
表示順	以下の項目を指定することができます。 取得日時／ノード ID／監視タスク ID／監視タスク名／カテゴリ名／ エクステンション名／監視対象名／値／サマリ方法／状態 の昇順／降順 デフォルトは取得日時の降順でソートされます。

モニタリング履歴検索結果一覧

検索結果リストのダウンロード　増減傾向の予測

1 – 9 (9件中)　1　表示件数 25　列表示

取得日時	ノードID	監視タスクID	監視タスク名	カテゴリ名	エクステンション名	監視対象名	値	サマリ方法	状態	ドメイン
2016-07-28 15:00:00	mgrb1	2	仮想メモリ使用率(%)[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	0	平均値	正常	mgrb1
2016-07-28 15:00:00	mgrb1	3	稼働プロセス数[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	160	平均値	正常	mgrb1
2016-07-28 15:01:00	mgrb1	1	CPU使用率(%)[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	2	平均値	異常	mgrb1
2016-07-28 15:02:00	mgrb1	2	仮想メモリ使用率(%)[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	0	平均値	正常	mgrb1
2016-07-28 15:02:00	mgrb1	3	稼働プロセス数[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	160	平均値	正常	mgrb1
2016-07-28 15:03:00	mgrb1	3	稼働プロセス数[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	161	平均値	正常	mgrb1
2016-07-28 15:03:00	mgrb1	2	仮想メモリ使用率(%)[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	0	平均値	正常	mgrb1
2016-07-28 15:03:00	mgrb1	1	CPU使用率(%)[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	2	平均値	異常	mgrb1
2016-07-28 15:05:00	mgrb1	1	CPU使用率(%)[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	3	平均値	警告	mgrb1

図 5-4 モニタリング履歴検索結果一覧画面

D) 履歴検索方法

1. 監視タスク ID リストで任意の条件を設定し［検索］ボタンを押下します。
   ※虫眼鏡アイコンを押下することにより、検索条件入力補助画面が開きます。

2. 監視タスク ID リストで［検索］ボタンを押下します。

3. 表示される監視タスクのリストから確認したい監視タスクにチェックを入れ［OK］ボタンを押下します。

図 5-5 監視タスク ID リストウィンドウ

! 監視タスク ID リストの［検索］ボタンを押下して表示される監視タスクの表示上限は 500 件までとなります。
500 件以上の監視タスクが設定されている場合、［検索］ボタンを押下しても監視タスクが表示されません。
監視タスク ID リストの［ノード ID］、［カテゴリ名］、［監視タスク名］、［エクステンション名］のいずれかを利用し、表示件数を制限する必要があります。

E)　履歴検索方法

1.　モニタリング履歴検索画面より保存する検索条件を設定します。

2.　検索条件欄に存在する［編集］ボタンを押下します。

3.　検索条件欄のリストより「(未設定)」の検索条件を選択します。

4.　検索条件名称欄に任意の検索条件名を入力します。

5.　日時保存欄で任意のラジオボタンにチェックを入れます。

保存しない	該当検索条件を選択し、「取得日時」にデフォルト値が表示されます。
絶対日時	該当検索条件を選択し、「取得日時」に設定した絶対日時が表示されます。
相対日時	該当検索条件を選択し、「取得日時」に選択した相対日時が表示されます。

6.　［登録］ボタンを押下し、検索条件を保存します。

図 5-6　検索条件の保存画面

F)　検索条件の削除方法

1.　モニタリング履歴検索画面より検索条件欄の［編集］ボタンを押下します。

2.　検索条件欄より削除対象の検索条件名を選択し［削除］ボタンを押下します。

G)　検索結果リストのダウンロード　※この機能はスマートフォンでの利用はできません。

［検索結果リストのダウンロード］ボタンを押下することで、検索結果をテキスト形式、CSV 形式のいずれかでダウンロードすることができます。ダウンロード可能最大件数は10,000 件です。

H)　増減傾向の予測

［増減傾向の予測］ボタンで検索結果をもとに増減傾向の予測を閲覧することができます。

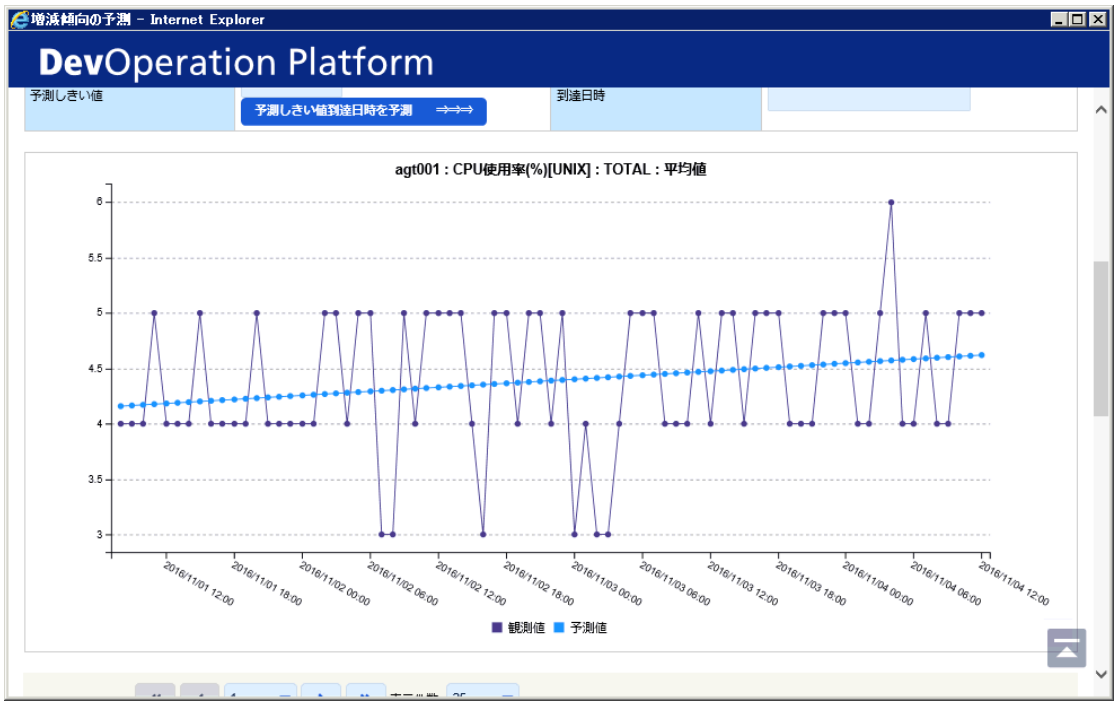


図 5-7　増減傾向の予測グラフ画面

増減傾向の予測画面各ボタン詳細

ボタン	機能
予測詳細の表示／非表示ボタン	予測詳細の表示／非表示を切り替えます。
グラフの表示／非表示ボタン	グラフの表示／非表示を切り替えます。
予測結果一覧の表示／非表示ボタン	予測結果一覧の表示／非表示を切り替えます。
予測結果リストのダウンロードボタン	予測結果をテキストファイルでダウンロードします。
画面の印刷ボタン	増減傾向の予測画面を印刷します。

増減傾向の予測詳細

項目	値
対象期間	履歴検索画面の取得日時の設定値が表示されます。
データの種類	履歴検索画面の検索対象の設定値が表示されます。
サマリ方法	履歴検索画面のサマリ方法の設定値が表示されます。
グラフの種類	グラフの種類を下記より選択できます。 エリアグラフ／横棒グラフ／縦棒グラフ／縦棒(3D)グラフ／縦棒折れ線グラフ／縦棒(3D)折れ線グラフ 初期設定は折れ線グラフです。
観測値の色	観測値の色をプルダウンから選択できます。 初期設定は Dark Slate Blue です。
予測値の色	予測値の色をプルダウンから選択できます。 初期設定は DodgerBlue です。
縦軸の範囲	縦軸の範囲を半角数字(整数、小数、指数)の 32 文字以内で指定できます。値の入力後、 [反映]ボタンにてグラフを再表示します。 初期設定は検索結果より自動計算された値です。
監視対象名	表示するグラフを検索した監視タスクより変更可能です。

6 ジョブ稼働履歴検索

ジョブ稼働履歴検索

6.1 ジョブ稼動履歴検索

６章［ジョブ稼働履歴検索］目次

6　ジョブ稼働履歴検索……6-1

6.1 ジョブ稼動履歴検索……6-3
6.1.1ジョブ稼動履歴検索……6-3
6.1.2利用方法……6-4

6.1　ジョブ稼動履歴検索

6.1.1 ジョブ稼動履歴検索

- ジョブの稼働履歴(正常終了／異常終了／スキップ終了)を検索して確認することができます。

- ジョブ稼働履歴の履歴保存期間の初期設定値は 12 ヶ月です。
  履歴保存期間については変更ができます。
  詳細は「12.1　各種履歴データ保存期間の変更」を参照してください。

- ジョブ稼働履歴検索結果一覧より任意のジョブ/ネット名を押下することで、ジョブモニタ機能を利用することができます。

! ジョブモニタ機能の詳細な利用方法は［7　ジョブモニタ］をご確認ください。

6.1.2利用方法

A) 履歴検索方法

1. トップメニュー画面よりジョブ稼働履歴検索メニューを押下します。
2. ジョブ稼働履歴検索画面が表示されたら、任意の検索条件を設定して［検索］ボタンを押下します。

! 検索条件の［詳細条件表示］ボタンを押下することで、詳細な条件を設定することができます。

図 6-1 ジョブ稼働履歴検索画面

詳細条件設定（詳細条件表示時）

検索	
検索条件	デフォルト検索条件以外に、設定した検索条件を 1 アカウントにつき 10 個まで保存することができます。
ドメイン	アカウントに付与されているドメインリスト内で検索する千手マネージャを指定することができます。デフォルトは地球儀アイコン「 」にて選択されているドメインが指定されます。
運用日付	必須項目です。デフォルトは当日含む過去 2 日間が指定されます。 以下の範囲内を指定してください。 ドメイン欄で「全て」を選択した条件：7 日以内 任意のドメインを指定し完全一致の条件：180 日以内 任意のドメインを指定し部分一致の条件：35 日以内
稼動開始日時	検索するシステム／フレーム／ネット／ジョブの稼働開始日時を指定して検索することができます。
稼動終了日時	検索するシステム／フレーム／ネット／ジョブの稼働終了日時を指定して検索することができます。
検索対象	「フレーム」、「ネット」、「ジョブ」、「分岐ジョブ」を指定して検索することができます。
システム名	システム名を指定して検索することができます。
状態	検索対象で指定した対象の終了ステータス（正常終了／異常終了／スキップ終了」を指定して検索することができます。
フレーム名	フレーム名を指定して検索することができます。
実行動作環境	実行動作環境を指定して検索することができます。
親ネット名	親ネット名を指定して検索することができます。
稼動ノード ID	稼働ノード ID を指定して検索することができます。
ジョブ／ネット名	ジョブ名／ネット名を指定して検索することができます。
実行時間	実行時間を指定して検索することができます。
表示順	以下の項目が指定できます。 検索対象／運用日付／システム名／フレーム名／親ネット名／ジョブ ／ネット名／稼働終了日時／実行時間／状態／終了コード ／実行動作環境名／稼働ノード ID の昇順／降順 デフォルトは稼働開始日時の降順でソートされます。

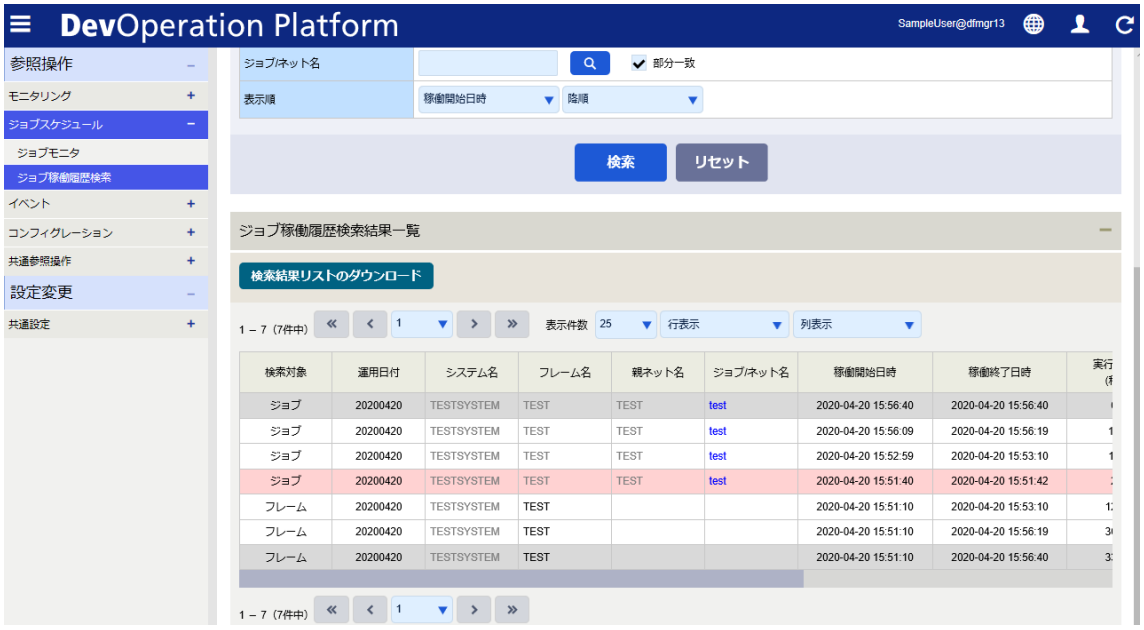


図 6-2 ジョブ稼働履歴検索結果一覧画面

B) 検索結果リストのダウンロード ※この機能はスマートフォンでの利用はできません。

［検索結果リストのダウンロード］ボタンを押下することで、検索結果を TSV 形式、CSV 形式のいずれかでダウンロードすることができます。

ダウンロード可能最大件数は 10,000 件です。

C) 検索条件の保存方法

1. ジョブ稼働履歴検索画面より保存する検索条件を設定します。
2. 検索条件欄に存在する［編集］ボタンを押下します。
3. 検索条件欄のリストより［（未設定）］の検索条件を選択します。
4. 検索条件名称欄に任意の検索条件名を入力します。
5. 日時保存欄で任意のラジオボタンにチェックを入れます。

保存しない	該当検索条件を選択し、「運用日時」にデフォルト値が表示されます。「稼働開始日時」と「稼働終了日時」に何も表示されません。
絶対日時	該当検索条件を選択し、「運用日時」、「稼働開始日時」と「稼働終了日時」に設定した絶対日時が表示されます。
相対日時	該当検索条件を選択し、「運用日時」に設定した相対日時が表示されます。「稼働開始日時」と「稼働終了日時」に選択した相対日時が表示されます。

6. ［登録］ボタンを押下し、検索条件を保存します。

図 6-3 検索条件の保存画面

D) 検索条件の削除方法

1. ジョブ稼働履歴検索画面より検索条件欄の［編集］ボタンを押下します。
2. 検索条件欄のリストより削除対象の検索条件を選択し［削除］ボタンを押下します。

E) ジョブモニタ画面の利用方法

1. トップメニュー画面よりジョブ稼働履歴検索メニューを押下します。
2. ジョブ稼働履歴検索画面が表示されたら、確認対象のジョブ／ネットが検索される条件を設定して［検索］ボタンを押下します。
3. ジョブ稼働履歴検索結果一覧よりチャート図確認対象のジョブ／ネット名を押下すると、ジョブモニタ画面が表示されます。

! ジョブモニタ機能の詳細な利用方法は［7 ジョブモニタ］をご確認ください。

7 ジョブモニタ

ジョブモニタ

7.1 ジョブモニタ

7 章［ジョブモニタ］目次

7　ジョブモニタ 7-1

7.1 ジョブモニタ 7-3
7.1.1 ジョブモニタ機能概要 7-3
7.1.2 利用方法 7-3

7.1　ジョブモニタ

7.1.1 ジョブモニタ機能概要

- 千手システムで稼働しているジョブスケジュール実行情報をランチャートとして、前後関係や各オブジェクトのステータスを確認することができます。

7.1.2 利用方法

A)　ジョブモニタ表示方法

1. トップメニュー画面よりジョブモニタメニューを押下します。
2. ジョブモニタ画面が表示されたら、任意のドメインを押下し、実行システムを表示させます。
3. 任意の実行システム名配下のフレーム名を押下し、ランチャートを表示させます。

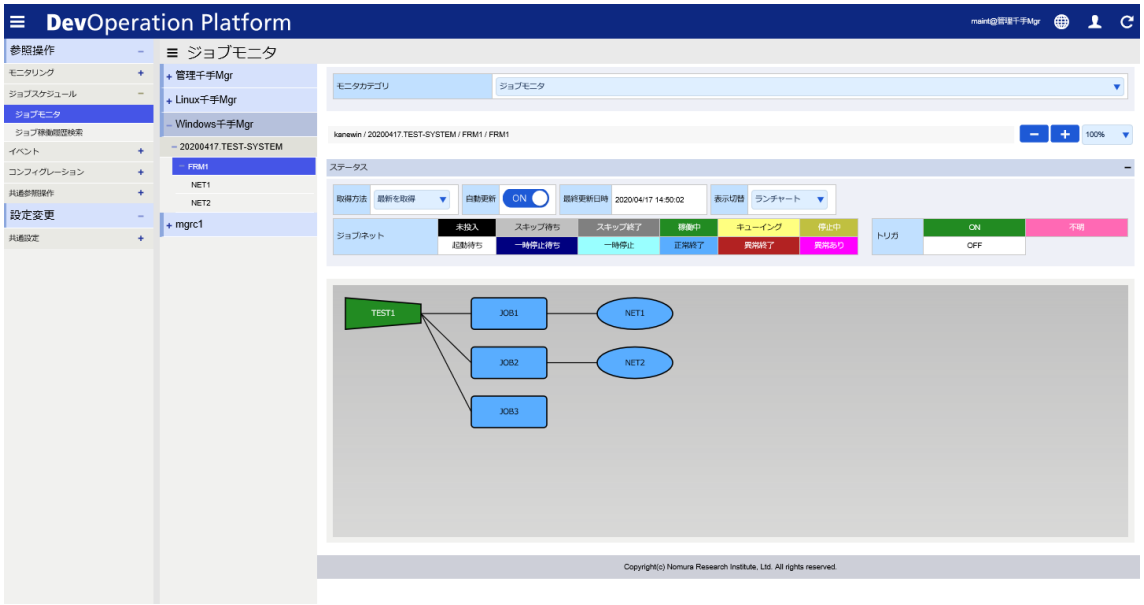


図 7-1　ジョブモニタ（ランチャート）画面

取得方法で［最新を取得］を表示できるのは、最大 8 フレームまでとなります。9 フレーム選択した場合は一番過去の運用日付の取得方法が［稼働履歴から取得］となります。

ジョブモニタは、千手ブラウザ上の確認対象ジョブ／ネットを含む実行システムが削除されると、「実行フレーム情報が削除されている可能性があります。」とメッセージが表示され、DevOP から参照できなくなります。

自動サイクル運用のシステム運用基準時刻の処理で正常終了したフレームは初期化されます。取得方法が［稼働履歴から取得］の場合、初期化処理が行われたフレームをジョブモニタで参照すると、初期化前のステータス情報で表示され、取得方法が［最新を取得］の場合、初期化後のステータス情報が表示されます。

図 7-2 ジョブモニタ各設定方法変更画面

B) モニタカテゴリの変更

表示モニタをジョブモニタ／実行システムモニタ/フレームモニタ/トリガモニタのいずれかに変更することができます。

1. 実行システムを一覧化して表示します。

   実行システムモニタに表示の実行システム名のリンクを開くとフレームモニタが表示されます。

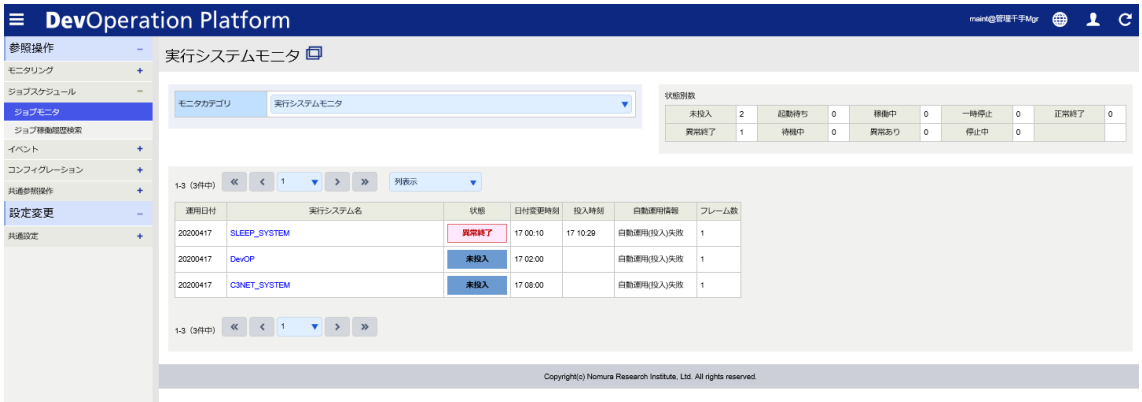


図 7- 3 実行システムモニタ画面

2. 実行システム配下のフレームを一覧化して表示します。
フレームモニタのフレーム名のリンクを開くとジョブモニタが表示、実行システム名のリンクを開くと実行システムモニタが表示されます。

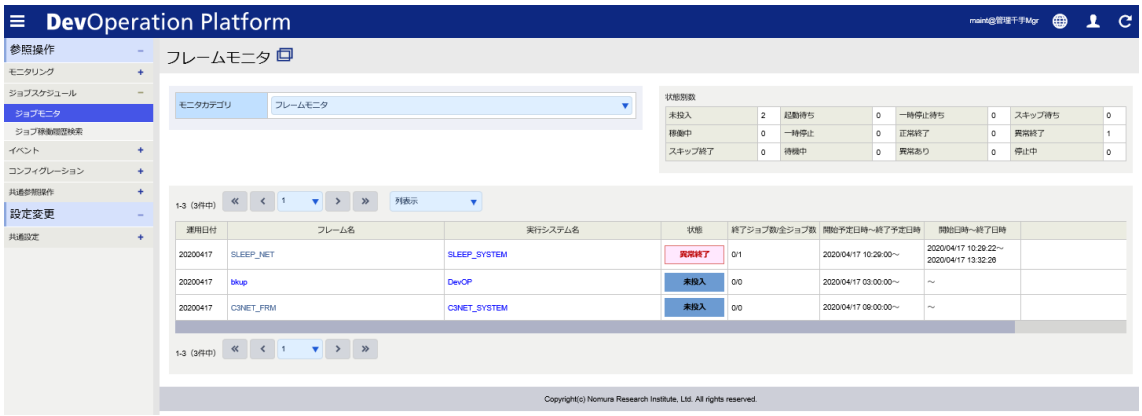


図 7-4 フレームモニタ画面

3. トリガを一覧化して表示します。
トリガモニタのノード名、ノード ID のリンクを開くとノードモニタが表示されます。

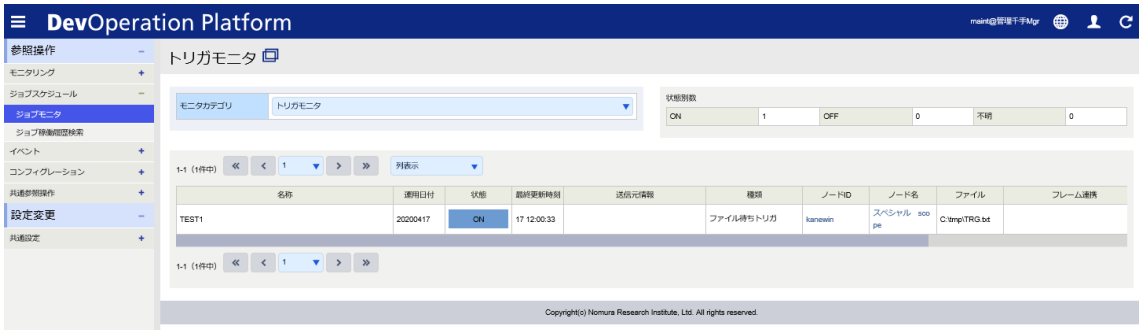


図 7-5 トリガモニタ画面

C) 稼働状況の取得方法変更

稼働状況の取得方法は［稼働履歴から取得］と［最新を取得］を選択することができます。ジョブモニタ画面の［取得方法］のリストから任意の方法を選択します。

・［稼働履歴から取得］は DevOP DB に蓄積された情報を元にジョブ／ネットのステータス情報と色を表示します。デフォルトの設定は［稼働履歴から取得］です。

・［最新を取得］は千手マネージャから稼働状況を取得してジョブ／ネットのステータス情報と色を表示します。

D) 自動更新

ジョブモニタ画面で［自動更新］の ON／OFF を選択することができます。

自動更新が ON の場合は、60 秒毎に最新の情報を取得してステータス情報や色の反映を行います。デフォルトの設定は［ON］です。

E) 表示切替

ジョブモニタをランチャート表示／一覧表示に切り替えることができます。

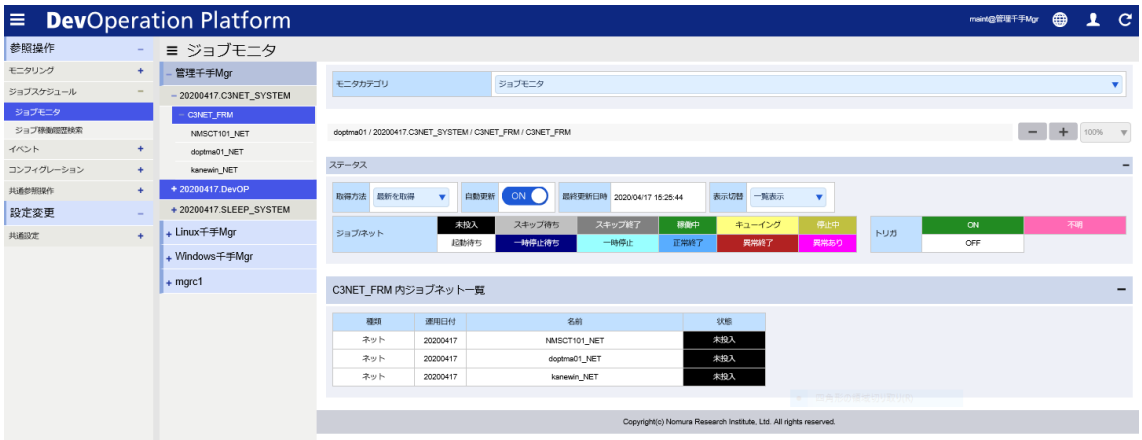


図 7-6 ジョブモニタ（一覧表示）画面

F) ジョブモニタのチャート図拡大／縮小方法

ジョブモニタ画面右上に存在する「－」、「＋」、「表示倍率のリスト」でチャート図の拡大、縮小することができます。

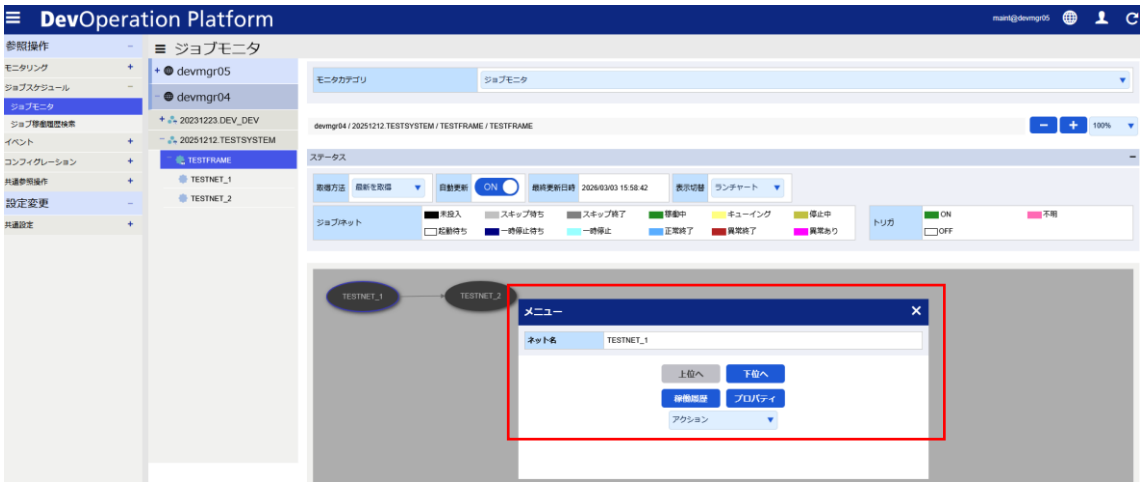


図 7-3 ジョブ/ネットの操作方法確認画面

G) ジョブ／ネットのプロパティの確認方法

任意のジョブ／ネットを左クリックすることで表示されるメニューから［プロパティ］を押下することで、画面下部にプロパティを表示することができます。

H) 上位ネット、下位ネットへの移動

任意のジョブ／ネットを左クリックすることで表示されるメニューから［上位ネット］／［下位ネット］を押下することで、確認している対象から上位ネットや下位ネットへ移動することができます。

I) ジョブ／ネットの稼働履歴の確認方法

任意のジョブ／ネットを左クリックすることで表示されるメニューから［稼働履歴］ボタンすることで、画面下部にジョブ／ネットの稼働履歴を表示することができます。

デフォルトで表示される稼働履歴情報の運用日付の範囲は直近 10 日間です。また、指定可能な運用日付の範囲は 32 日以内となります。

J） ジョブ／ネット アクション項目（OPTION）

ジョブ／ネットの制御が可能です。

本項目は、OPTION となるため、通常は選択不可となります。

本項目の利用には、条件があります。詳細は営業担当にご確認ください。

選択可能なアクション項目

項目	内容
再ラン	ジョブ／ネット 両方で使用可能 選択したジョブ／ネット を再ランします。
強制停止	ジョブ／ネット 両方で使用可能 選択したジョブ／ネット を強制停止します。
初期化	ジョブ／ネット 両方で使用可能 選択したジョブ／ネット を初期化します。
一時停止	ジョブ／ネット 両方で使用可能 選択したジョブ／ネット を一時停止指定します。
スキップ	ジョブ／ネット 両方で使用可能 選択したジョブ／ネット をスキップ指定します。
先行条件	ジョブ／ネット 両方で使用可能 選択したジョブ／ネット の先行条件を表示します。
強制起動	ジョブ／ネット 両方で使用可能 選択したジョブ／ネット を強制起動します。
ジョブ実行状況	ジョブ のみで使用可能 選択したジョブ の実行状況情報を表示します。
キューイング要因	ジョブ のみで使用可能 選択したジョブ のキューイング要因を表示します。
動作環境サーバー稼働状況	ジョブ のみで使用可能 選択したジョブ の動作環境サーバー稼働状況を表示します。
動作環境サーバー再起動	ジョブ のみで使用可能 選択したジョブ の動作環境サーバーを再起動します。
ジョブログ表示	ジョブ のみで使用可能 選択したジョブ のジョブログを表示します。
ノード別稼働ジョブ表示	ジョブ のみで使用可能 選択したジョブ のノード別稼働ジョブ情報を表示します。

8 メッセージ履歴検索

メッセージ履歴検索

8.1 メッセージ履歴検索

8 章［メッセージ履歴検索］目次

8　メッセージ履歴検索 8-1

8.1 メッセージ履歴検索 8-3
8.1.1 メッセージ履歴検索概要 8-3
8.1.2 利用方法 8-4

8.1　メッセージ履歴検索

8.1.1 メッセージ履歴検索概要

- 千手メッセージの発生状況を検索して確認することができます。

- 千手メッセージの履歴保存期間の初期設定値は 12 ヶ月です。
  履歴保存期間は変更することができます。
  詳細は「12.1　各種履歴データ保存期間の変更」を参照してください。

- WEB コンソールからメッセージ履歴に任意のコメントを追加することができます。

8.1.2利用方法

A) 履歴検索方法

1. トップメニュー画面よりメッセージ履歴検索メニューを押下します。
2. メッセージ履歴検索画面が表示されたら、任意の検索条件を設定して［検索］ボタンを押下します。

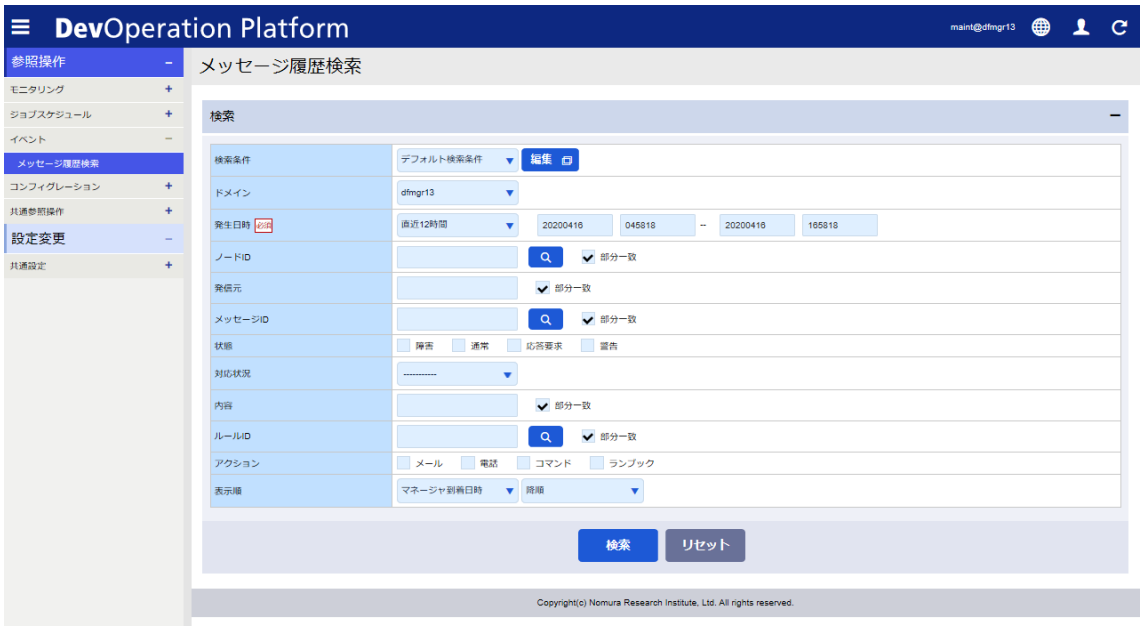


図 8-1 メッセージ履歴検索画面

検索条件設定詳細

検索	
検索条件	デフォルト検索条件以外に、設定した検索条件を 1 アカウントにつき 10 個まで保存することができます。
ドメイン	アカウントに付与されているドメインリスト内で検索する千手マネージャを指定することができます。
発生日時	必須項目です。 発生日時の範囲は 7 日以内を指定してください。
ノード ID	ノード ID を指定して検索することができます。 また、部分一致での検索もできます。
発信元	発信元プロセスを部分一致で指定して検索することができます。
メッセージ ID	メッセージ ID を指定して検索することができます。 また、部分一致での検索もできます。
状態	障害：障害メッセージを検索します。 通常：通常メッセージを検索します。 応答要求：応答要求メッセージを検索します。 警告：警告メッセージを検索します。 コメント：コメントを検索します。
内容	メッセージ内容を指定して検索することができます。 また、部分一致での検索もできます。
対応状況	メッセージの対応状況を指定して検索することができます。（複数選択可） 未設定／新規／対応中／解決済／クローズ／保留中
ルール ID	ルール ID を指定して検索することができます。 また、部分一致での検索もできます。
アクション	メール：自動メールしたメッセージを検索します。 ※予約メッセージ機能での自動メールしたメッセージは対象外 電話：自動電話したメッセージを検索します。 コマンド：自動コマンドしたメッセージを検索します。 ランブック：ランブックアクションを実行したメッセージを検索します。
表示順	以下の指定ができます。 マネージャ到着日時／メッセージ ID／状態／ノード ID／発信元／発生日時 ／内容／対応種別／アクション／ルール ID の昇順／降順 デフォルトはマネージャ到着日時の降順でソートされます。

B)　メッセージ履歴検索結果一覧

メッセージ履歴検索結果一覧に表示される最大メッセージは 500 件です。

1 画面表示件数は「10／25／50／100／全て」から選択することができます。

列表示は、チェックボックス設定にて表示する項目を以下から選択できます。

選択／メッセージ ID／状態／対応状況／ノード ID／発信元／発生日時／内容／対応種別／マネージャ到着日時／アクション／ルール ID／ドメイン／コメント

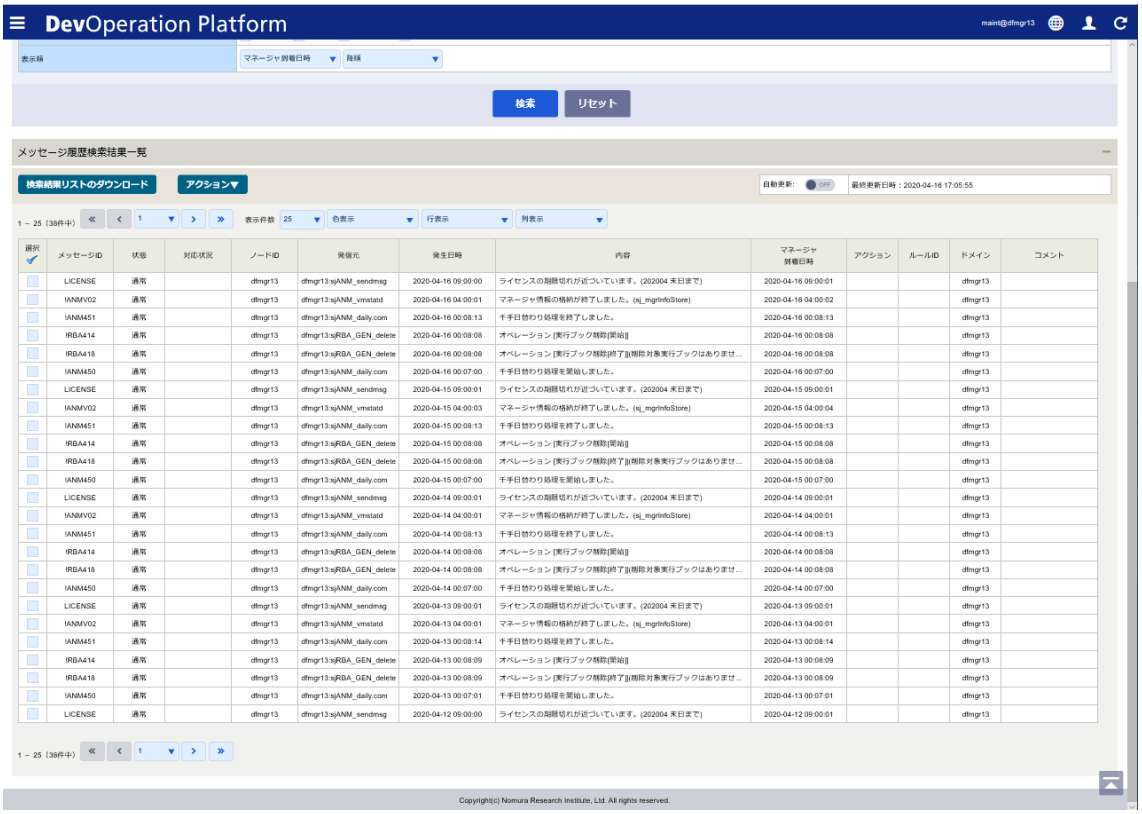


図 8-2　メッセージ履歴検索結果一覧画面

C) メッセージへのアクション設定

メッセージ履歴検索結果一覧に表示されたメッセージを指定して以下のアクションを実施することができます。

対応状況更新／ガイド／コメント／対応一覧／関連情報

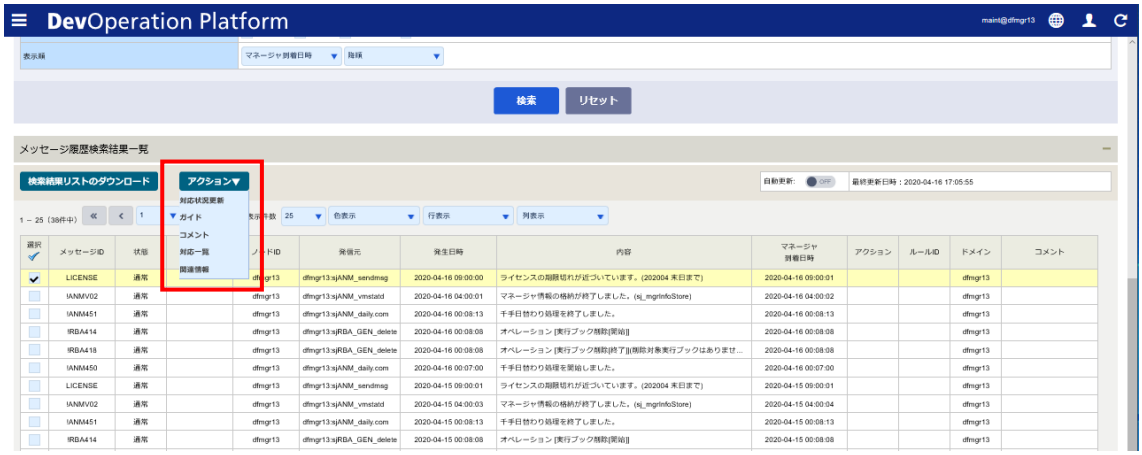


図 8-3 アクション選択画面

・ 対応状況更新

メッセージの対応状況を以下から選択し、指定することができます。（複数選択可）

更新した対応状況は、メッセージの対応状況欄に表示され、対応一覧に履歴が残ります。

未設定／新規／対応中／解決済／クローズ／保留中

図 8-3 対応状況更新画面

・　ガイド

指定したメッセージのメッセージガイドを参照することができます。（複数選択不可）

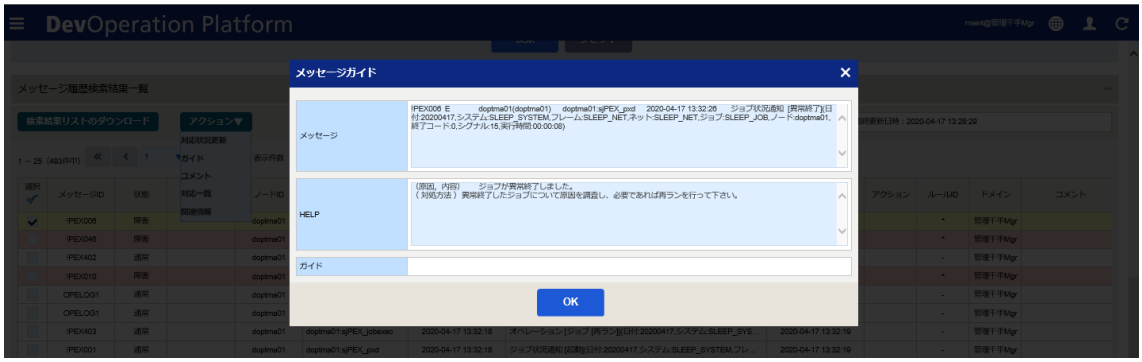


図 8-4　ガイド画面

・　コメント

指定したメッセージにコメントを追加できます。（複数選択可）

追加したコメントはメッセージのコメント欄に表示されます。

図 8-5　コメント画面

図　8-6　コメント追加したメッセージ履歴画面

・　対応一覧

対応状況更新で行った更新と対応したアカウント情報を時系列順に一覧表示します。

（複数選択不可）

図 8-7　対応一覧画面

・　関連情報

メッセージ関連情報として、メッセージ詳細／ノード情報／メッセージ発生時の稼働ジョブ情報／メッセージ発生時のモニタリング情報／過去メッセージ情報　が表示されます。

（複数選択不可）

［ファイル出力］ボタンを押下することで、表示結果を CSV 形式でダウンロードすることができます。※ファイル出力機能はスマートフォンでの利用はできません。

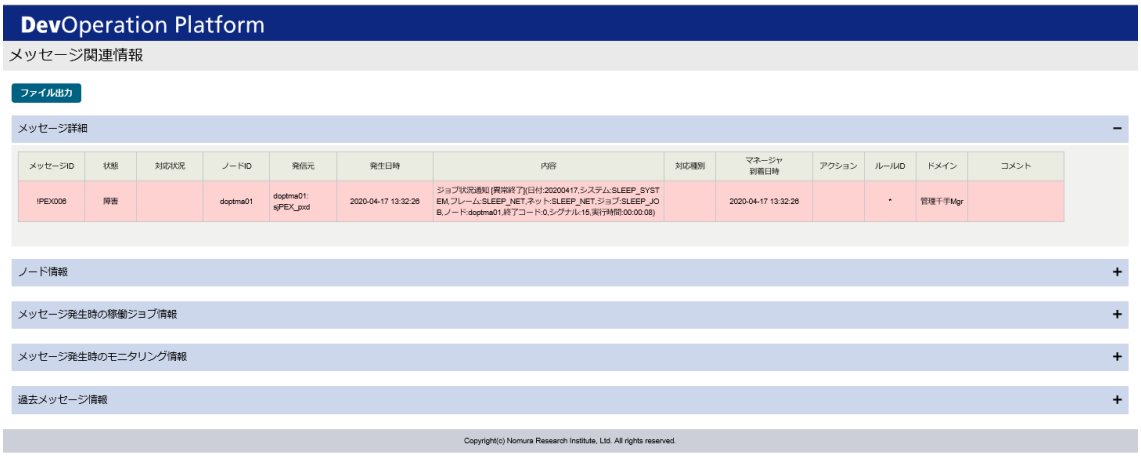


図 8-8　メッセージ関連情報画面

ノード情報

千手基本情報

ドメイン名	doptma01
ノードID	doptma01
ノード名	doptma01
ロングホスト名	
IPアドレス	172.155.12.51
説明	
種別	千手エージェント(UNIX/Linux)

千手稼働アカウント	senju
バージョン	20.0.0
ホームディレクトリ	/home/senju
オペレーティングシステム	linux
漢字コード	ja_JP.EUC
PCBポート番号	8407
FTUポート番号	8461

機能

モニタリング	有効
ジョブスケジュール	有効
コンフィグレーション	有効
ランブックオートメーション	無効

ノードグループ

ノードグループなし

図 8-9 メッセージ関連情報（ノード情報）画面

メッセージ発生時の稼働ジョブ情報

システム名	フレーム名	親ネット名	ジョブ/ネット名	稼働開始日時	稼働終了日時	実行時間(秒)	状態	終了コード	実行動作環境名	稼働ノードID	ドメイン
SLEEP_SYSTEM	SLEEP_NET	SLEEP_NET	SLEEP_JOB	2020-04-17 13:32:18	2020-04-17 13:32:26	8	異常終了	0	ServiceMGR	doptma01	管理千手Mgr

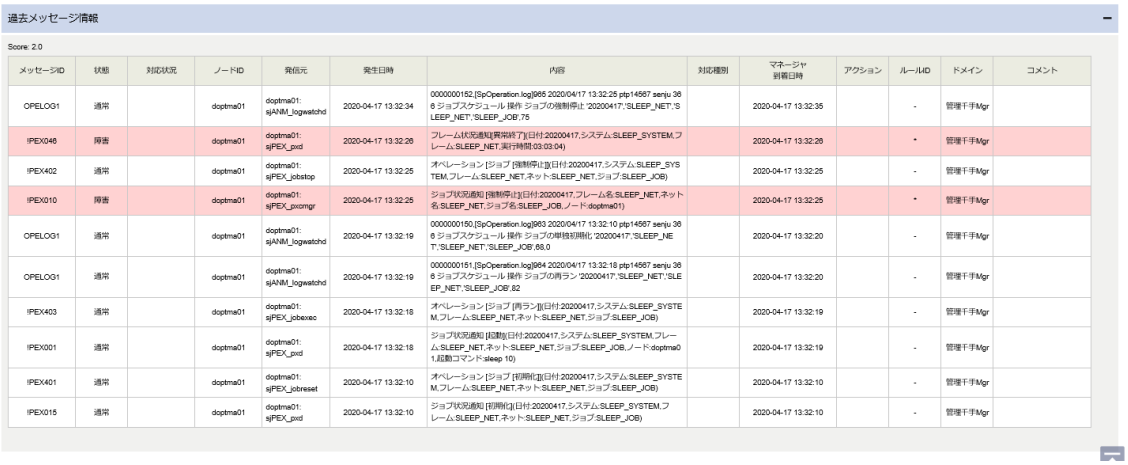
図 8-10 メッセージ関連情報（メッセージ発生時の関連ジョブ情報）画面

メッセージ発生時のモニタリング情報

状態：正常を表示　状態：警告を表示　状態：異常を表示

取得日時	ノードID	監視タスクID	監視タスク名	カテゴリ名	エクステンション名	監視対象名	値	サマリ方法	状態	ドメイン
2020-04-17 13:32:00	doptma01	386	CPU使用率(%)[UNIX]	システム情報	システム情報	TOTAL	100	最新値	異常	管理千手Mgr

図 8-11 メッセージ関連情報（メッセージ発生時のモニタリング情報）画面



過去メッセージ情報

Score: 2.0

メッセージID	状態	対応状況	ノードID	発信元	発生日時	内容	対応種別	マネージャ到着日時	アクション	ルールID	ドメイン	コメント
OPELOG1	通常		doptma01	doptma01: sjANM_logwatchd	2020-04-17 13:32:34	0000000152,[SpOperation.log]965 2020/04/17 13:32:25 ptp14567 senju 366 ジョブスケジュール 操作 ジョブの強制停止 '20200417','SLEEP_NET','SLEEP_NET','SLEEP_JOB',75		2020-04-17 13:32:35		-	管理千手Mgr	
IPEX046	障害		doptma01	doptma01: sjPEX_pxd	2020-04-17 13:32:26	フレーム状況通知[異常終了](日付:20200417,システム:SLEEP_SYSTEM,フレーム:SLEEP_NET,実行時間:03:03:04)		2020-04-17 13:32:26		*	管理千手Mgr	
IPEX402	通常		doptma01	doptma01: sjPEX_jobstop	2020-04-17 13:32:25	オペレーション [ジョブ [強制停止](日付:20200417,システム:SLEEP_SYSTEM,フレーム:SLEEP_NET,ネット:SLEEP_NET,ジョブ:SLEEP_JOB)		2020-04-17 13:32:25		-	管理千手Mgr	
IPEX010	障害		doptma01	doptma01: sjPEX_pxcmgr	2020-04-17 13:32:25	ジョブ状況通知 [強制停止](日付:20200417,フレーム名:SLEEP_NET,ネット名:SLEEP_NET,ジョブ名:SLEEP_JOB,ノード:doptma01)		2020-04-17 13:32:25		*	管理千手Mgr	
OPELOG1	通常		doptma01	doptma01: sjANM_logwatchd	2020-04-17 13:32:19	0000000150,[SpOperation.log]963 2020/04/17 13:32:10 ptp14567 senju 366 ジョブスケジュール 操作 ジョブの単独初期化 '20200417','SLEEP_NET','SLEEP_NET','SLEEP_JOB',68,0		2020-04-17 13:32:20		-	管理千手Mgr	
OPELOG1	通常		doptma01	doptma01: sjANM_logwatchd	2020-04-17 13:32:19	0000000151,[SpOperation.log]964 2020/04/17 13:32:18 ptp14567 senju 366 ジョブスケジュール 操作 ジョブの再ラン '20200417','SLEEP_NET','SLEEP_NET','SLEEP_JOB',82		2020-04-17 13:32:20		-	管理千手Mgr	
IPEX403	通常		doptma01	doptma01: sjPEX_jobexec	2020-04-17 13:32:18	オペレーション [ジョブ [再ラン]](日付:20200417,システム:SLEEP_SYSTEM,フレーム:SLEEP_NET,ネット:SLEEP_NET,ジョブ:SLEEP_JOB)		2020-04-17 13:32:19		-	管理千手Mgr	
IPEX001	通常		doptma01	doptma01: sjPEX_pxd	2020-04-17 13:32:18	ジョブ状況通知 [起動](日付:20200417,システム:SLEEP_SYSTEM,フレーム:SLEEP_NET,ネット:SLEEP_NET,ジョブ:SLEEP_JOB,ノード:doptma01,起動コマンド:sleep 10)		2020-04-17 13:32:19		-	管理千手Mgr	
IPEX401	通常		doptma01	doptma01: sjPEX_jobreset	2020-04-17 13:32:10	オペレーション [ジョブ [初期化]](日付:20200417,システム:SLEEP_SYSTEM,フレーム:SLEEP_NET,ネット:SLEEP_NET,ジョブ:SLEEP_JOB)		2020-04-17 13:32:10		-	管理千手Mgr	
IPEX015	通常		doptma01	doptma01: sjPEX_pxd	2020-04-17 13:32:10	ジョブ状況通知 [初期化](日付:20200417,システム:SLEEP_SYSTEM,フレーム:SLEEP_NET,ネット:SLEEP_NET,ジョブ:SLEEP_JOB)		2020-04-17 13:32:10		-	管理千手Mgr	

図 8-12 メッセージ関連情報（過去メッセージ情報）画面

D) 検索条件の保存方法

1. メッセージ履歴検索画面より保存する検索条件を設定します。
2. 検索条件欄に存在する［編集］ボタンを押下します。
3. 索条件欄のリストより［ (未設定) ］の検索条件を選択します。
4. 検索条件名称欄に任意の検索条件名を入力します。
5. 日時保存欄で任意のラジオボタンにチェックを入れます。

保存しない	該当検索条件を選択し、「発生日時」にデフォルト値が表示されます。
絶対日時	該当検索条件を選択し、「発生日時」に設定した絶対日時が表示されます。
相対日時	該当検索条件を選択し、「発生日時」に選択した相対日時が表示されます。

6. ［登録］ボタンを押下し、検索条件を保存します。

図 8-13 検索条件の保存画面

E) 検索条件の削除方法

1. メッセージ履歴検索画面より検索条件欄の［編集］ボタンを押下します。
2. 検索条件欄のリストより削除対象の検索条件名を選択し、［削除］ボタンを押下します。

F) 検索結果リストのダウンロード ※この機能はスマートフォンでの利用はできません。

［検索結果リストのダウンロード］ボタンを押下することで、検索結果をテキスト形式、CSV形式のいずれかでダウンロードすることができます。

ダウンロード可能最大件数は 10,000 件です。

9 ソフトウェア／パッチ情報検索

ソフトウェア/パッチ情報検索

9.1 ソフトウェア／パッチ情報検索

9 章［ソフトウェア／パッチ情報検索］目次

9　ソフトウェア／パッチ情報検索 9-1

9.1 ソフトウェア／パッチ情報検索 9-3
9.1.1 ソフトウェア／パッチ情報検索概要 9-3
9.1.2 千手ブラウザでのソフトウェア／パッチ情報収集設定 9-4
9.1.3 利用方法 9-6

9.1　ソフトウェア／パッチ情報検索

9.1.1 ソフトウェア／パッチ情報検索概要

- 千手ブラウザで収集設定を行ったノードのソフトウェア／パッチ情報を参照することができます。
- ソフトウェア／パッチ情報は、千手ブラウザの設定で毎日決められた時間に収集されます。収集スケジュールの初期設定は毎日 2:00 となります。千手ブラウザで収集した情報は、毎日 9:00 に DevOP が情報の取得を行います。
- 収集したソフトウェア／パッチ情報の保存期間は 2 日となります。

9.1.2 千手ブラウザでのソフトウェア／パッチ情報収集設定

A) 千手ブラウザでのソフトウェア／パッチ情報取得設定

1. ツリービューで、<ドメイン> → ［コンフィグレーション］ → ［構成管理ノード］ を選択します。
2. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから ［新規作成］ を選択します。
3. ［全般］ タブの ［ノード ID］ に対応するフォルダのアイコンを押下します。
4. ノード ID 一覧より、ソフトウェア／パッチ情報の収集対象とするノード ID を選択し ［OK］ ボタンを押下します。
5. ［千手管理項目］ タブの ［千手構成管理項目］ → ［ソフトウェア／パッチ情報］ の ［収集］ 列が ［する］ となっていることを確認します。
6. 収集スケジュールの初期設定は毎日 2:00 となります。スケジュールを変更する場合は、 ［収集スケジュール］ を任意の設定に変更します。
7. 全ての設定を入力後、 ［OK］ ボタンを押下します。
8. ツリービューで、<ドメイン> → ［コンフィグレーション］ のコンテキストメニューで ［反映(コンフィグレーション)］ を選択します。
9. ［反映(コンフィグレーション)］ ウィンドウで ［データの更新］ ラジオボタンにチェックを入れ、 ［OK］ ボタンを押下します。

! ノード ID 一覧に、収集対象とするノード ID が表示されていない場合は、ツリービューで <ドメイン> → ［ノードグループ］ → ［全体］ を選択し、右ペイン内の収集対象ノードのプロパティにて ［全般］ タブに存在する ［コンフィグレーション］ にチェックが入っていることを確認してください。

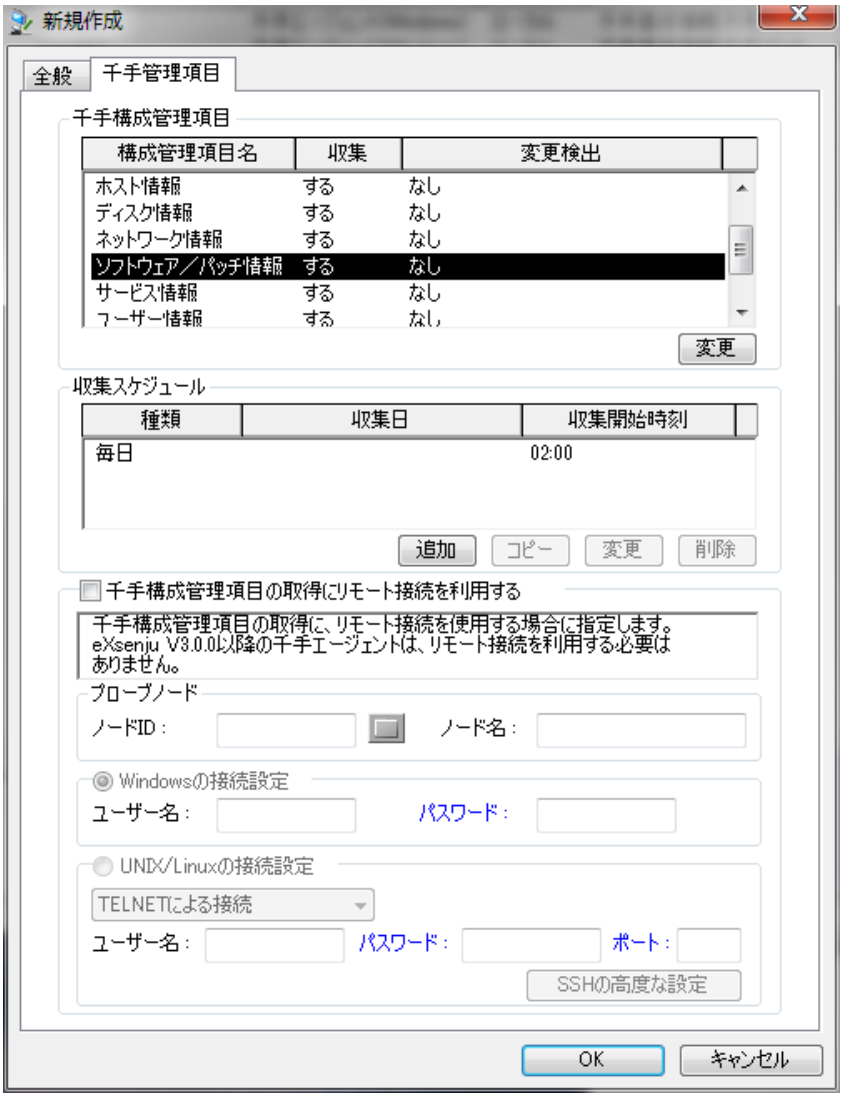


図 9-1 ソフトウェア／パッチ情報収集設定画面

9.1.3 利用方法

A) 検索方法

1. トップメニュー画面よりソフトウェア／パッチ情報検索メニューを押下します。

2. ソフトウェア／パッチ情報検索画面が表示されたら、任意の検索条件を設定して［検索］ボタンを押下します。

図 9-2 ソフトウェア／パッチ情報検索画面

検索条設定詳細

検索	
検索条件	デフォルト検索条件以外に、設定した検索条件を 1 アカウントにつき 10 個まで保存することができます。
ドメイン	アカウントに付与されているドメインリスト内で検索する千手マネージャを指定することができます。
取得日時	必須項目です。 取得日時の範囲はデータ保存期間内を指定してください。 (保存期間は 2 日間で、取得タイミングの初期設定値は毎日 2:00 です。)
ノード ID	検索対象ノードを指定して検索することができます。
ソフトウェア／パッチ情報名称	ソフトウェア／パッチ情報の名称を指定して検索することができます。
バージョン	ソフトウェア／パッチ情報の名称を指定して検索することができます。
表示順	以下の指定ができます。 取得日時／ノード ID／ソフトウェア／パッチ情報名称 ／バージョン の昇順／降順 デフォルトは取得日時の降順でソートされます。

B) 検索条件の保存方法

1. ソフトウェア／パッチ情報検索画面より保存する検索条件を設定します。
2. 検索条件欄に存在する［編集］ボタンを押下します。
3. 検索条件欄のリストより「(未設定)」の検索条件を選択します。
   検索条件名称欄に任意の検索条件名を入力します。
4. 日時保存欄で任意のラジオボタンにチェックを入れます。

保存しない　該当検索条件を選択し、「取得日時」にデフォルト値が表示されます。
絶対日時　該当検索条件を選択し、「取得日時」に設定した絶対日時が表示されます。
相対日時　該当検索条件を選択し、「取得日時」に選択した相対日時が表示されます。

5. ［登録］ボタンを押下し、検索条件を保存します。

C) 検索条件の削除方法

1. ソフトウェア／パッチ情報検索画面より検索条件欄の［編集］ボタンを押下します。
2. 検索条件欄のリストより削除対象の検索条件を選択し［削除］ボタンを押下します。

D) 検索結果リストのダウンロード　※この機能はスマートフォンでの利用はできません。

［検索結果リストのダウンロード］ボタンを押下することで、検索結果をテキスト形式、CSV 形式のいずれかでダウンロードすることができます。
ダウンロード可能最大件数は 10,000 件です。

10　構成管理モニタ

構成管理モニタ

10.1 構成管理モニタ
10.2 構成ﾌｧｲﾙｻｰﾊﾞの設定方法
10.3 構成管理項目の設定
10.4 利用方法

10 章［構成管理モニタ］目次

10 構成管理モニタ 10-1

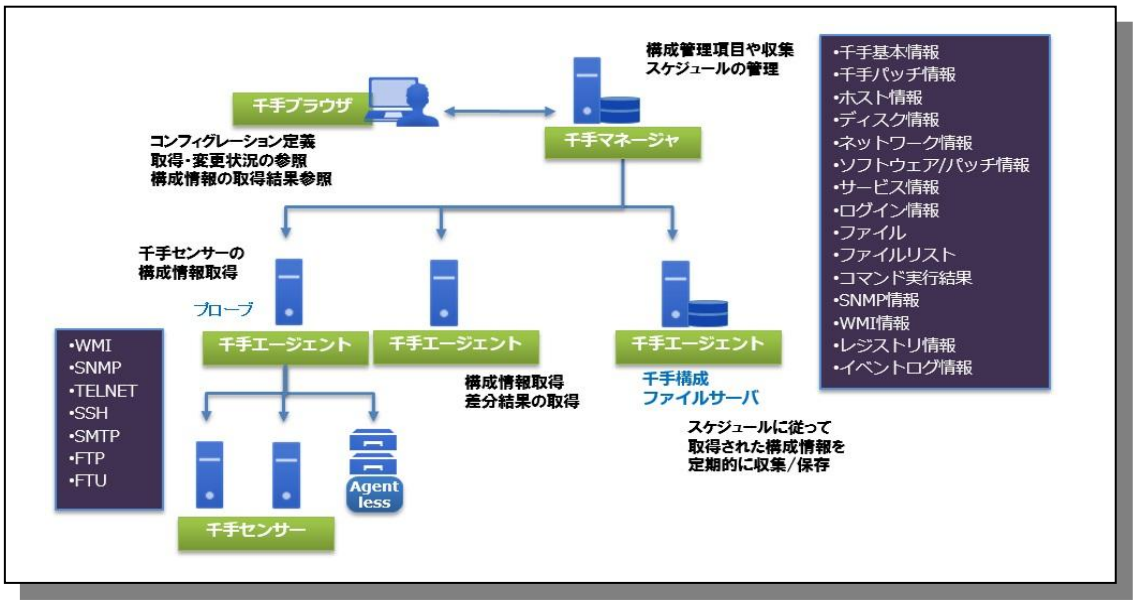
10.1 構成管理モニタ 10-3
10.1.1 構成管理モニタ機能概要 10-3
10.1.2 前提条件 10-4
10.2 構成ファイルサーバの設定方法 10-5
10.2.1 千手構成ファイルサーバ 10-5
10.2.2 千手構成ファイルサーバの設定 10-6
10.3 構成管理項目の設定 10-11
10.3.1 構成管理項目設定の流れ 10-11
10.3.2 構成管理項目設定 10-12
10.3.3 構成管理項目の設定正常性確認 10-20
10.3.4 構成管理項目の設定削除 10-22
10.4 利用方法 10-23
10.4.1 画面詳細 10-23
10.4.2 利用方法 10-27
10.4.3 注意事項 10-31

10.1 構成管理モニタ

10.1.1 構成管理モニタ機能概要

- 千手コンフィグレーションで構成管理項目として定義した管理対象ノードの構成情報・設定情報、ログ、任意のコマンド実行結果などの取得指示や、千手構成ファイルサーバへの転送、ダウンロードができます。

! 千手コンフィグレーションとは、管理対象機器（サーバー・ネットワーク機器）の構成情報・設定情報、ログ、又は任意のコマンドの実行結果などを構成管理項目として定義し、これらの情報を収集・蓄積するためのサブシステムです。



10.1.2 前提条件

A) 本機能を利用する上で千手構成ファイルサーバが必要になります。
千手構成ファイルサーバとは、構成管理項目として定義した情報を定期的に収集／保存する千手エージェントを指します。

B) 通信要件
本機能を利用する上で必要な通信要件は以下の通りです。

DevOP DB	通信方向	千手構成ファイルサーバ
gt1024／tcp	→	8408／tcp

10.2 構成ファイルサーバの設定方法

10.2.1 千手構成ファイルサーバ

- 千手構成ファイルサーバとして指定可能なノードは、種別：千手エージェント（Windows）のみとなります。

- 千手構成ファイルサーバには構成管理ノードから取得したファイルをデフォルト 30 日間保存します。保存日数の設定は変更することができます。変更方法は、「10.2.2　千手構成ファイルサーバの設定」を参照してください。

- DevOP DB サーバに転送したファイルの保存期間の初期設定値は 2 日間です。保存日数の設定は変更することができます。変更方法は、「12.1　各種履歴データ保存期間の変更」を参照してください。

10.2.2 千手構成ファイルサーバの設定

A) 千手ブラウザでの千手構成ファイルサーバ指定

1. ツリービューで、<ドメイン> → ［ノードグループ］ → ［全体］を選択します。
2. 右ペイン内で千手構成ファイルサーバに指定するノードのコンテキストメニューからプロパティを開きます。
3. プロパティの［全般］タブより［高度な設定］ボタンを押下します。
4. 千手構成ファイルサーバにチェックを入れます。
5. ［OK］ボタンを押下してプロパティを閉じます。
6. ツリービューで、<ドメイン> のコンテキストメニューから［反映(ノード定義)］を実行します。
7. ツリービューで、<ドメイン> → ［ノードグループ］ → ［全体］ →<千手構成ファイルサーバに指定したノード> のコンテキストメニューから［反映(監視属性) ］を実行します。

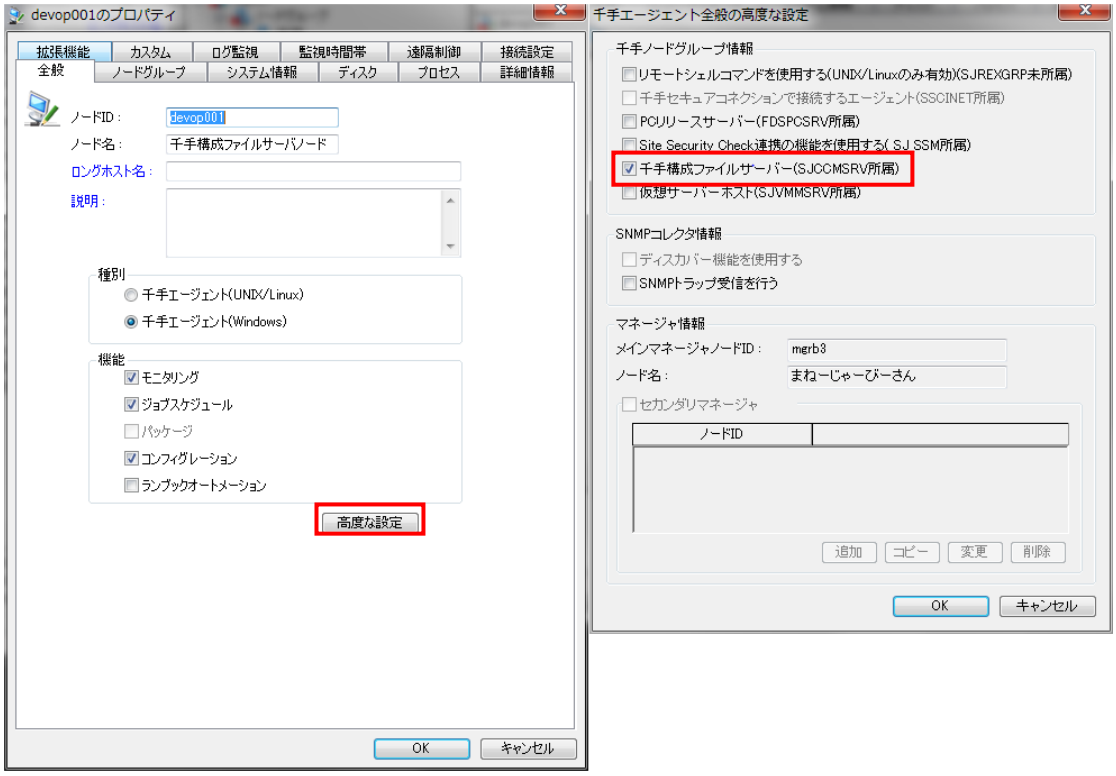


図 10-1 千手構成ファイルサーバの指定

B) rhosts ファイルの修正

1. 千手構成ファイルサーバにログインします。
2. %SENJUHOME%¥rhosts のバックアップを取得します。
3. rhosts をメモ帳で開きます。
4. 最終行に下記を追記して保存します。

   DevOP DB サーバ名 <TAB> 千手稼働アカウント

! 追記する内容については、サービス提供側から別途ご案内いたします。

C) HOSTS.EQV ファイルの作成

1. 千手構成ファイルサーバにログインします。
2. %SystemDrive%¥USERS¥DEFAULT¥HOSTS.EQV を作成します。
3. HOSTS.EQV をメモ帳で開きます。
4. 下記を追記して保存します。

   DevOP DB サーバ名

! 追記する内容については、サービス提供側から別途ご案内いたします。

D) 環境変数(CMSROOT)の設定

環境変数(CMSROOT)に、収集したファイルを保管するフォルダを設定します。

千手エージェントまたは、プローブに取得された千手構成管理項目／構成管理項目を、千手構成ファイルサーバ上の以下フォルダに収集します。

Windows ：%CMSROOT%¥収集日付(YYYYMMDD 形式)¥対象ノード

1. 千手構成ファイルサーバに千手稼働アカウントでログインします。
2. 任意のパスに収集したファイルを保管するフォルダを作成します。
3. コマンドプロンプトを起動し、下記のコマンドを実行します。

   sj_source -cCMSROOT=[作成したフォルダをフルパスで指定]

   例：sj_source -cCMSROOT=C:¥tmp¥log

E) 千手構成ファイルサーバ設定ファイルの修正(sj_ccm.ini)

1. 千手構成ファイルサーバに千手稼働アカウントでログインします。
2. %SENJUHOME%¥dat¥ccm¥sj_ccm.ini.sample を複製し、sj_ccm.ini として保存します。
3. sj_ccm.ini をメモ帳で開きます。
4. [YourHostName]を[千手構成ファイルサーバノード ID]に修正します。
   ※図 9-2 の通り、かっこ [ ] は消さずに千手構成ファイルサーバの千手ノード ID を指定します。

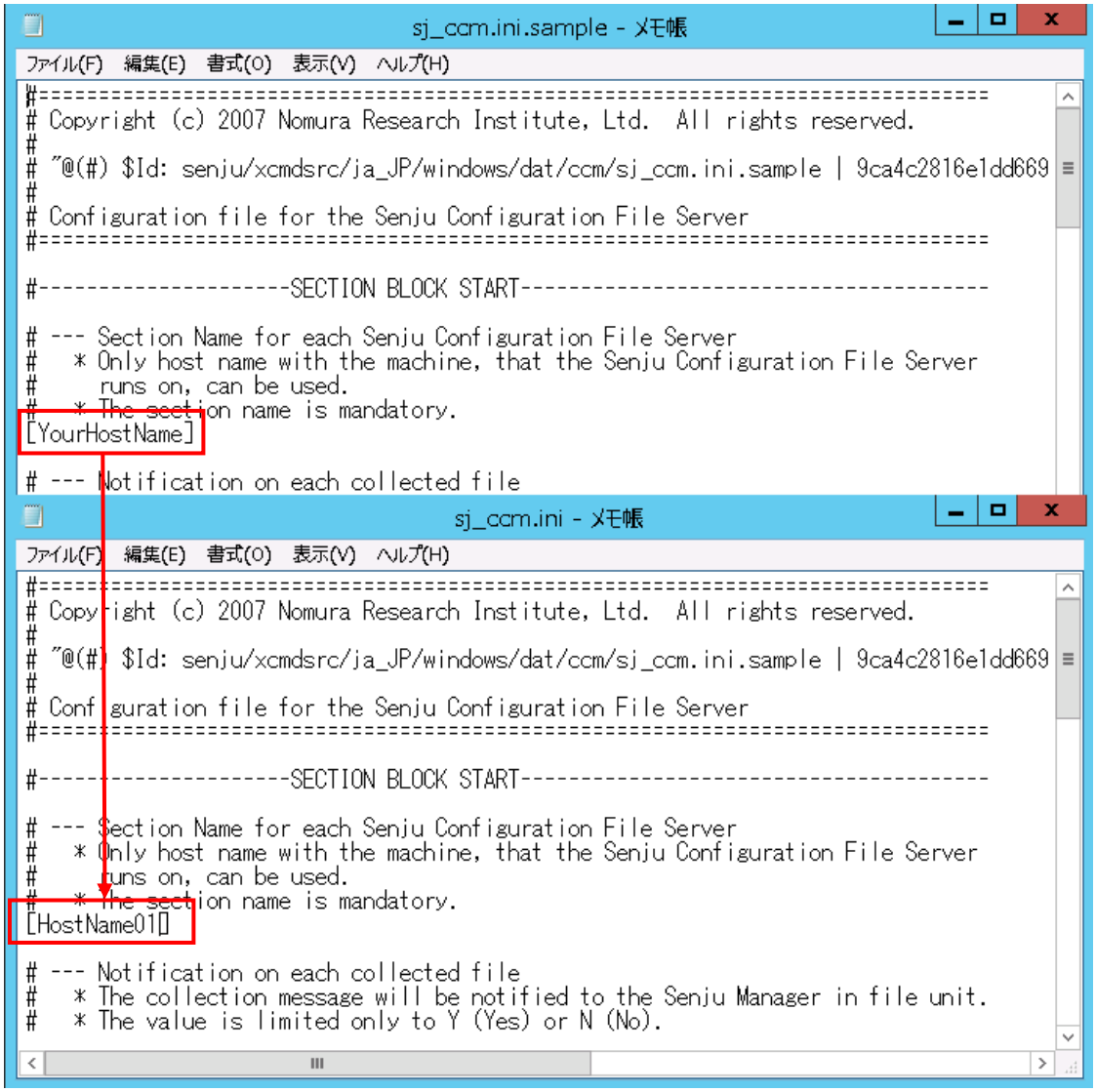


図 10-2 sj_ccm.ini ファイル

! 千手構成ファイルサーバに転送したファイルの保持日数の初期設定値は 30 日間となります。保持日数を変更する場合は、"FILE_REMAIN_DAYS"の値を変更します。

F)　設定反映

- 千手プロセスの起動

1. ツリービューで、<ドメイン>→［ノードグループ］→［全体］→<千手構成ファイルサーバに指定したノード>のコンテキストメニューから［ツール（ノードモニタ）］を起動します。
2. ノードモニタの［プロセス］タブを選択し、［システムプロセスを表示］にチェックを入れます。
3. 表示されたプロセスの一覧で下記プロセスの状態が［稼働中］であることを確認します。プロセスの状態が［稼働中］でないの場合は、プロセスのコンテキストメニューから［千手プロセス］→［起動］を選択します。

   sjCCM_monitord

   sjCCM_collectd

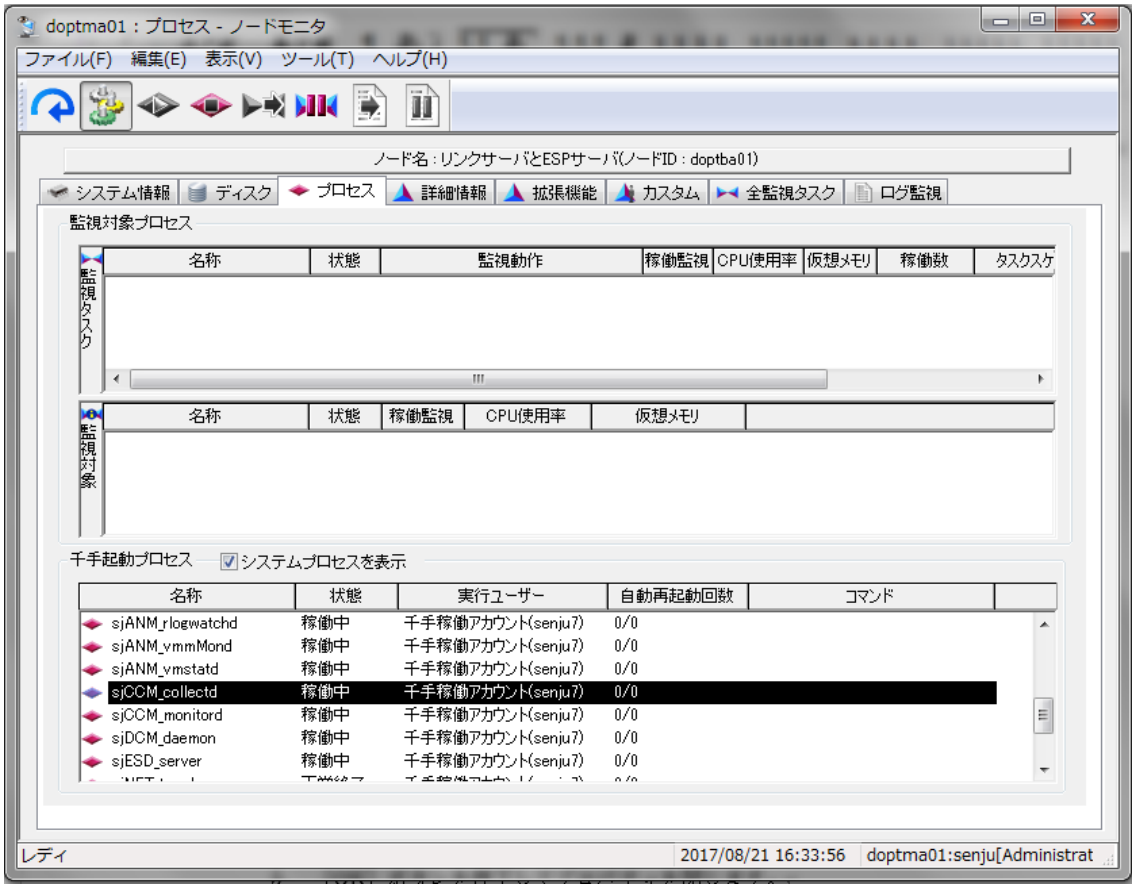


図 10-3 ノードモニタ

- 反映（コンフィグレーション）
  1. ＜ドメイン＞→［コンフィグレーション］のコンテキストメニューから［反映（コンフィグレーション）］を選択します。
  2. ［反映（コンフィグレーション）］ウィンドウで［データの更新］ラジオボタンにチェックを入れて［OK］ボタンを押下します。

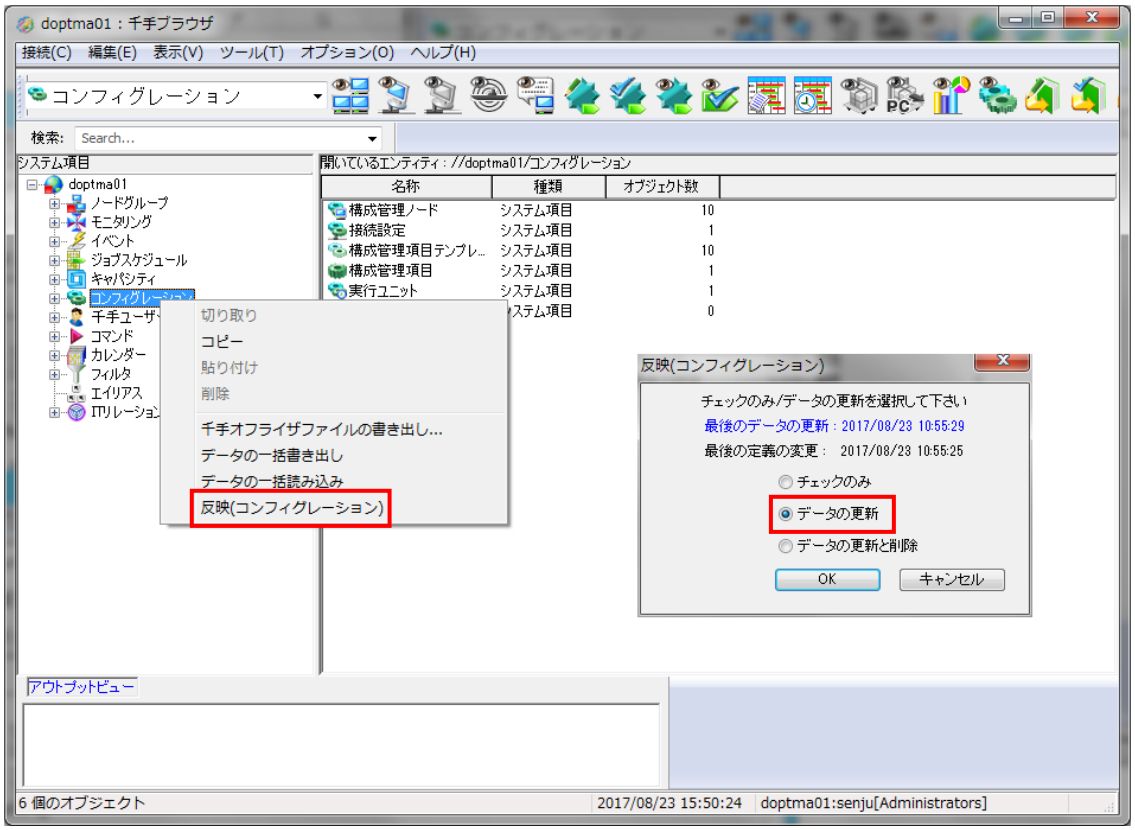


図 10-4 反映（コンフィグレーション）

10.3 構成管理項目の設定

10.3.1 構成管理項目設定の流れ

構成管理ノードの指定

千手コンフィグレーションによりファイルを取得するノードを、構成管理ノードとして定義します。

↓

構成管理ノードへの接続設定

千手構成管理項目以外の構成管理項目の取得を行う場合、構成管理ノードへの接続方法を定義します。

↓

構成管理項目の作成

取得するファイルを構成管理項目として定義します。

↓

実行ユニットの作成

いくつかの構成管理項目を纏め、その構成管理項目の収集スケジュール、収集元を定義します。

10.3.2 構成管理項目設定

A) 構成管理ノードの指定

1. ツリービューで、<ドメイン> → ［ノードグループ］ → ［全体］ を選択します。
2. 右ペイン内で管理対象ノードに指定するノードのコンテキストメニューからプロパティを開きます。
3. プロパティの ［全般］ タブの ［コンフィグレーション］ チェックボックスにチェックを入れます。
4. ［OK］ ボタンを押下してプロパティを閉じます。

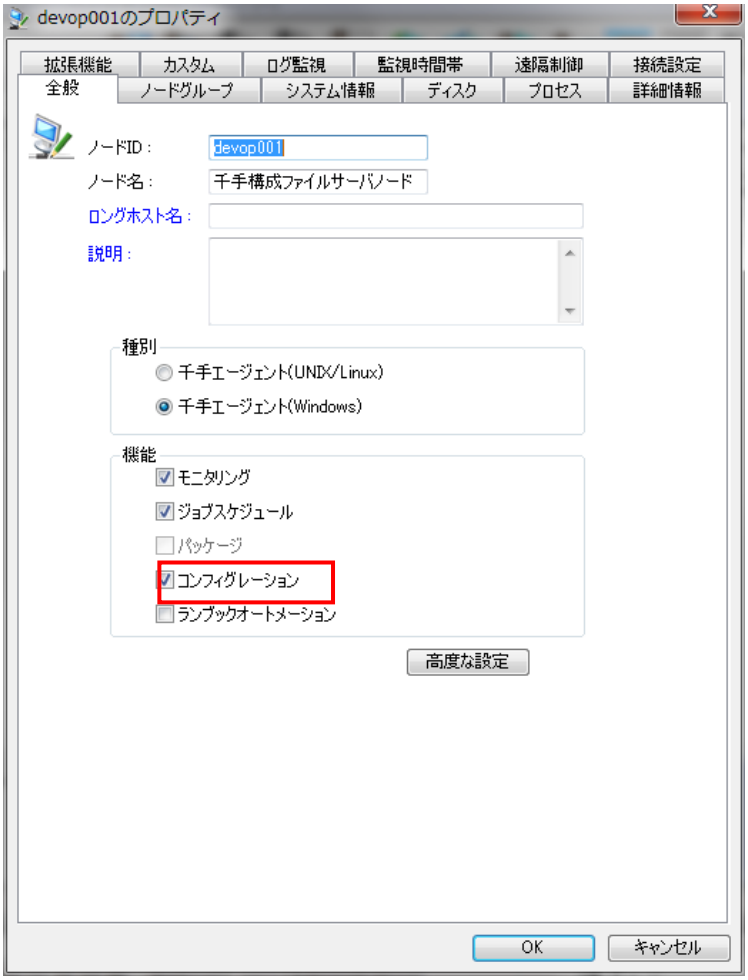


図 10-5 ノードプロパティ

5. ツリービューで、<ドメイン>のコンテキストメニューから［反映（ノード定義）］を実行します。
6. ノードモニタの［プロセス］タブを選択し、［システムプロセスを表示］にチェックを入れます。
7. 表示されたプロセスの一覧で［sjCCM_monitord］の状態が［稼働中］であることを確認します。
   プロセスの状態が［稼働中］でないの場合は、プロセスのコンテキストメニューから［千手プロセス］→［起動］を選択します。
8. ツリービューで、<ドメイン>→［コンフィグレーション］→［構成管理ノード］を選択します。
9. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから［新規作成］を選択します。
10. ［全般］タブでファイル取得を行うノード ID を指定し［OK］ボタンを押下します。

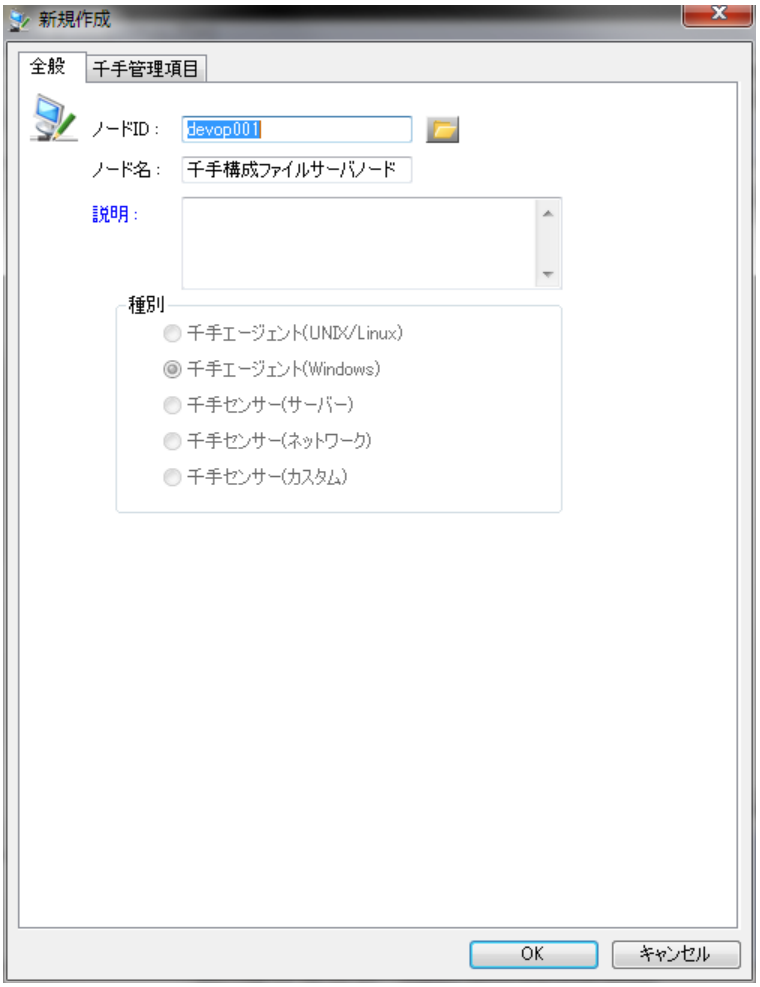


図 10-6 構成管理ノード新規作成画面

B) 構成管理ノードへの接続設定

1. ツリービューで、<ドメイン> → ［コンフィグレーション］ → ［接続設定］ を選択します。
2. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから ［新規作成］ を選択して接続グループを作成します。
3. ［新規作成］ ウィンドウで ［接続設定名］ に接続グループ名を入力し、 ［OK］ ボタンを押下します。

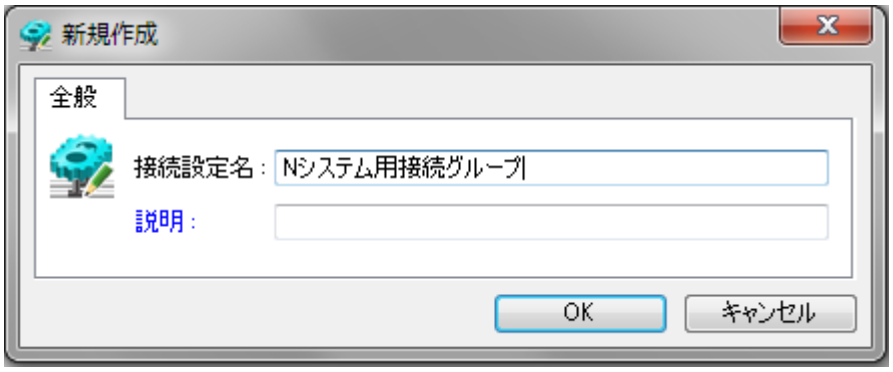


図 10-7 接続グループ

4. ツリービューで、<ドメイン> → ［コンフィグレーション］ → ［接続設定］ → ［接続グループ］ を選択します。
5. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから ［新規作成］ を選択します。
6. ［全般］ タブの ［ノード ID］ で構成管理ノードを指定します。

7.　［接続設定（ローカル）］タブまたは、［接続設定（リモート）］タブでは、構成管理項目で設定した内容に応じた設定を行い、［OK］ボタンを押下します。
※図 10-8 ではファイル取得時の設定例となります。

千手エージェントの接続設定は［接続設定（ローカル）］で行い、千手センサーの接続設定は［接続設定（リモート）］で行います。

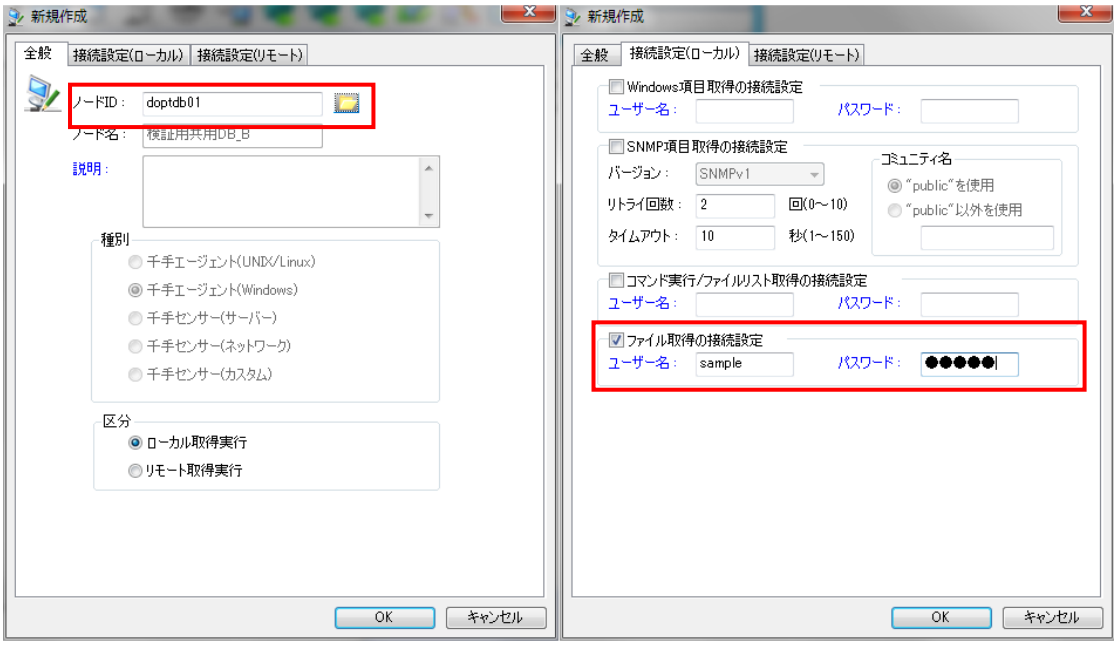


図 10-8 接続設定

C) 構成管理項目の作成

1. ツリービューで、<ドメイン>→［コンフィグレーション］→［構成管理項目］を選択します。
2. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから［新規作成］を選択して構成管理項目グループを作成します。
3. ［新規作成］ウィンドウで［カテゴリ］に構成管理項目グループ名を入力し、［OK］ボタンを押下します。

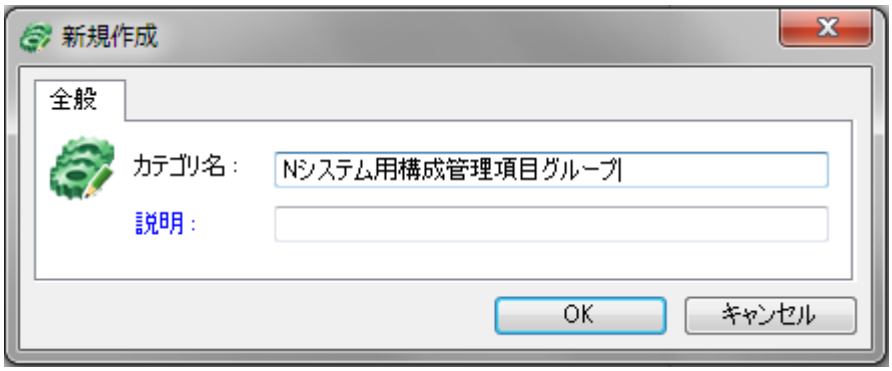


図 10-9 構成管理項目グループ

4. ツリービューで、<ドメイン>→［コンフィグレーション］→［構成管理項目］→［構成管理項目グループ］を選択します。
5. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから［新規作成］→［ファイル情報］を選択します。
6. ［全般］タブで［構成管理項目名］を入力します。
7. ［ファイル名］に取得するファイル名をフルパスで入力します。
   例：C:¥senju¥log¥SpMessage.log
8. ［取得サイズ］は［最後から］ラジオボタンにチェックを入れ［最大 1MB］を入力します。※取得サイズの推奨値は 1MB となります。

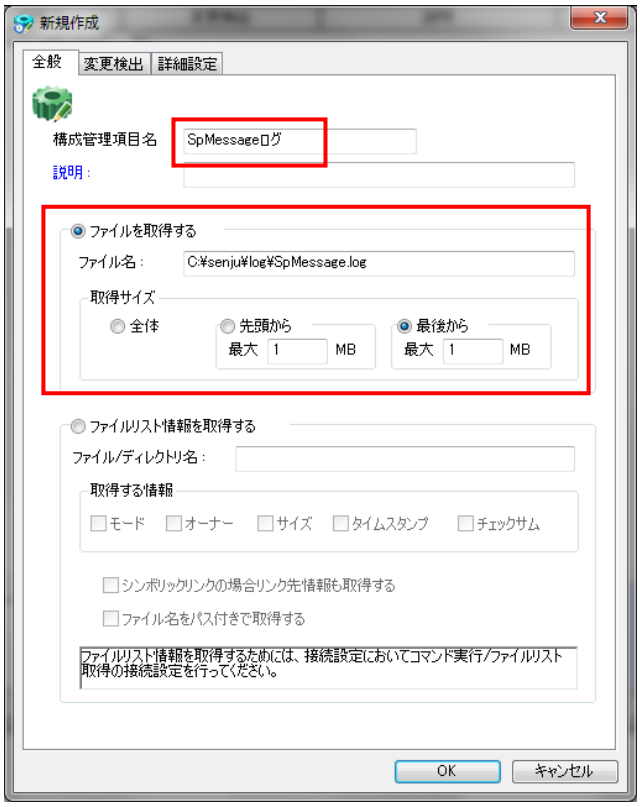


図 10-10 構成管理項目

! ファイル格納パス、ファイル名に"@"が含まれていると本機能は利用できません。

! ファイル格納パス、ファイル名に正規表現は利用できません。

D) 実行ユニットの作成

1. ツリービューで、<ドメイン>→［コンフィグレーション］→［実行ユニット］を選択します。
2. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから［新規作成］を選択して実行ユニットグループを作成します。
3. ［新規作成］ウィンドウで［グループ名］に実行ユニットグループ名を入力し、［OK］ボタンを押下します。

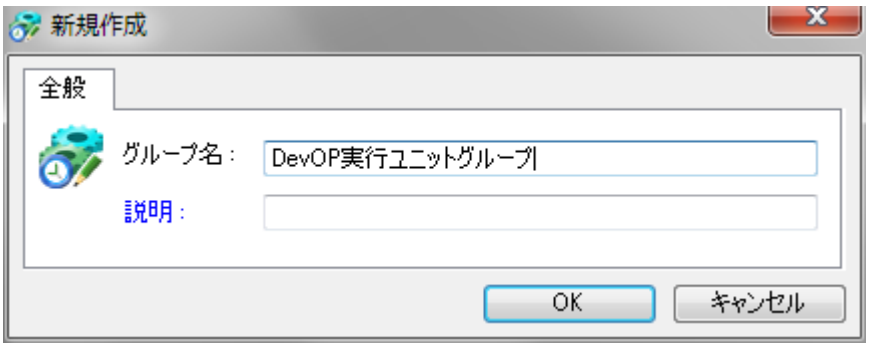


図 10-11 実行ユニットグループ

4. ツリービューで、<ドメイン>→［コンフィグレーション］→［実行ユニット］→［実行ユニットグループ］を選択します。
5. 右ペインの何も表示されていない部分で右クリックし、コンテキストメニューから［新規作成］を選択します。
6. ［全般］タブで［実行ユニット名］を入力します。
7. ［新規作成］ウィンドウで［構成管理項目］の［追加］ボタンを押下します。
8. ［構成管理項目］ウィンドウで［構成管理項目］と［接続設定］を指定し、［OK］ボタンを押下します。
9. ［新規作成］ウィンドウで［収集スケジュール］の［追加］ボタンを押下します。
10. ［収集スケジュール］ウィンドウでは“毎月”の何日の何時か、“毎週”の何曜日の何時か、または“毎日”の何時かのいずれかを指定し、［OK］ボタンを押下します。
    ※月末日などの一意な設定はなく、31 日を月末日としてチェックしても、31 日がない月では、月末日として扱われません。2 月 28 日や 4 月 30 日なども収集日としたい場合は、これらの日付のチェックが必要です。
11. ［収集元］タブで［使用可能な収集元］一覧から収集対象ノードを選択し、［追加］ボタンを押下します。
12. ［OK］ボタンを押下し、［新規作成］ウィンドウを閉じます。

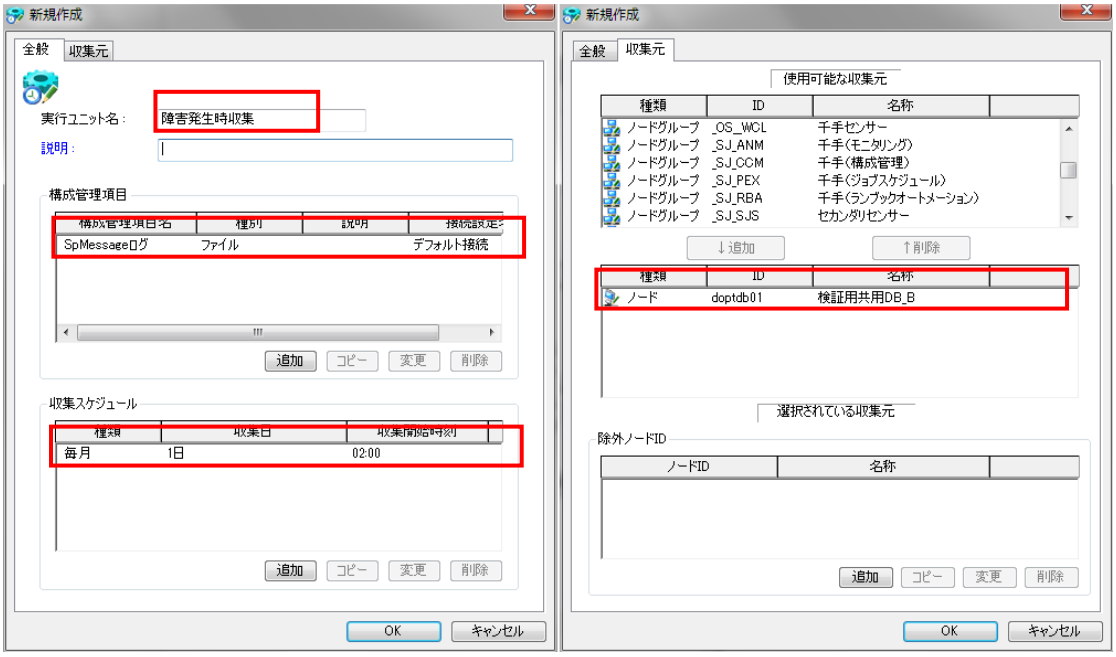


図 10-12 実行ユニット

E) 設定の反映

1. ＜ドメイン＞→［コンフィグレーション］のコンテキストメニューから［反映（コンフィグレーション）］を選択します。
2. ［反映（コンフィグレーション）］ウィンドウで［データの更新］ラジオボタンにチェックを入れて［OK］ボタンを押下します。

10.3.3 構成管理項目の設定正常性確認

A) 構成管理項目の［今すぐ取得］実行

1. ツリービューで、<ドメイン>→［コンフィグレーション］→［構成管理項目］のコンテキストメニューから［ツール(構成モニタ)］を選択します。
2. ツリービューで、［全体］→［構成管理ノード］→［実行ユニット］を選択します。
3. 右ペインに表示された［構成管理項目］のコンテキストメニューから［今すぐ取得］を選択します。
4. ［今すぐ取得］ウィンドウで表示されている［ノード ID］と［実行ユニット名］に誤りが無いことを確認し、［OK］ボタンを押下します。

11. ［構成モニタ］の［最新の情報に更新］ボタンを押下し、構成管理項目の［最終実行日時］欄が今すぐ取得を実行した日時に更新され［状態］欄が［取得成功］であることを確認します。

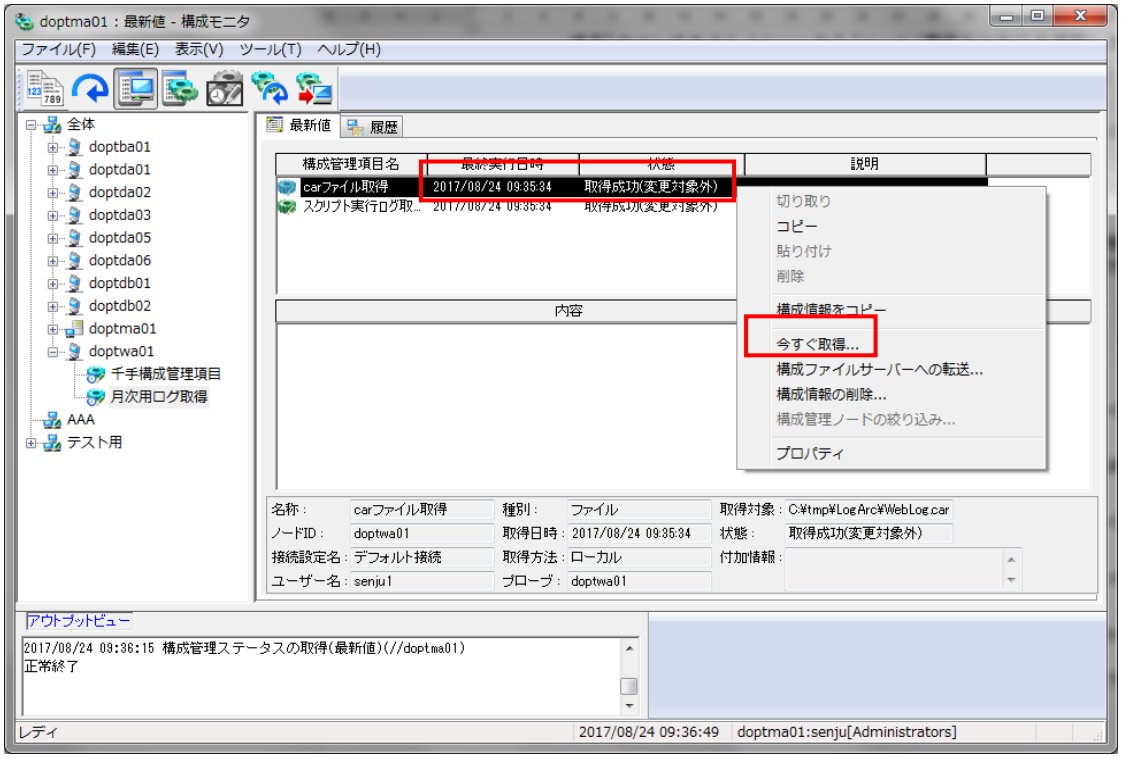


図 10-13 構成モニタ

B) 千手構成ファイルサーバへの転送

1. 今すぐ取得を実行した［構成管理項目］のコンテキストメニューから［構成ファイルサーバへの転送］を選択します。
2. ［構成ファイルサーバーへの転送］ウィンドウに表示された情報に誤りが無いことを確認し、［OK］ボタンを押下します。
3. メッセージモニタにメッセージ ID［!CCM202］が出力されることを確認します。
   このメッセージは千手構成ファイルサーバ転送に成功したときに出力されるメッセージです。
4. 千手構成ファイルサーバにログインします。
5. 「10.2.2 千手構成ファイルサーバの設定」で設定した環境変数（CMSROOT）のパスに転送したファイルが存在することを確認します。

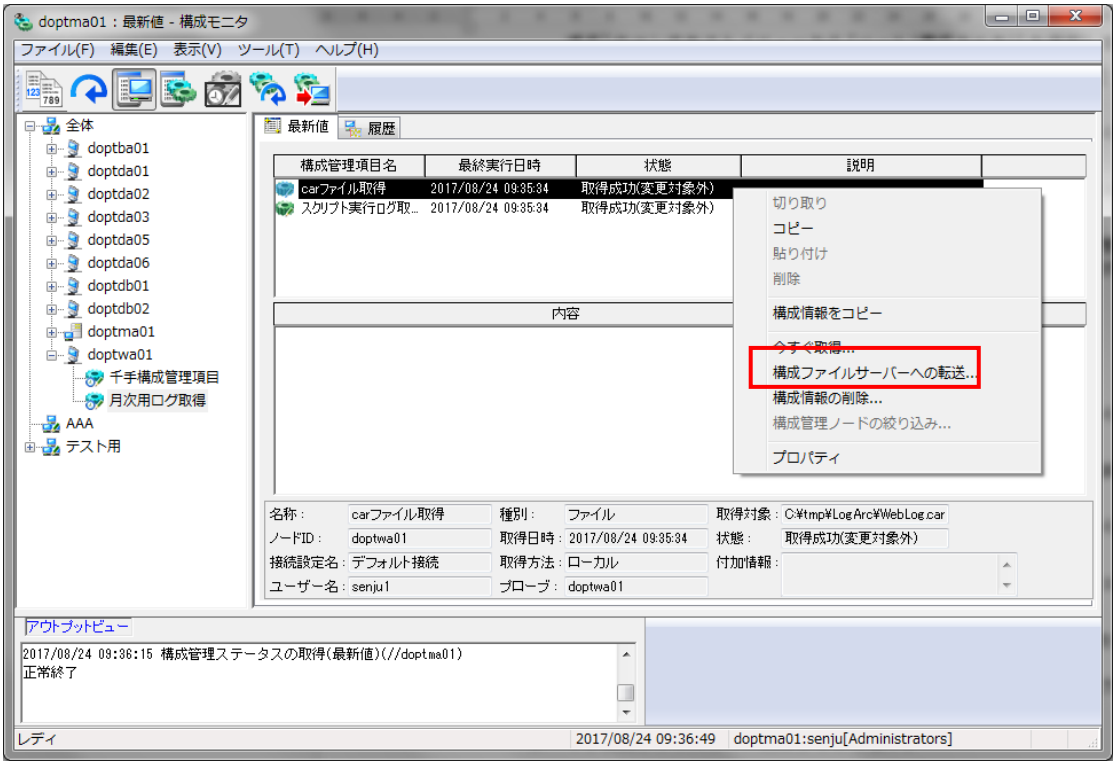


図 10-14 構成ファイルサーバへの転送

10.3.4 構成管理項目の設定削除

A) 取得ファイルの設定削除

1. ツリービューで、<ドメイン> → ［コンフィグレーション］ → ［実行ユニット］ を選択します。
2. 削除対象の ［実行ユニットグループ］ または、［実行ユニット］ のコンテキストメニューから ［削除］ を選択します。
3. 確認画面が表示されますので、［はい］ を選択します。
4. ツリービューで、<ドメイン> → ［コンフィグレーション］ → ［構成管理項目］ を選択します。
5. 削除対象の ［構成管理項目グループ］ または、［構成管理項目］ のコンテキストメニューから ［削除］ を選択します。
6. 確認画面が表示されますので、［はい］ を選択します。
7. ツリービューで、<ドメイン> → ［コンフィグレーション］ のコンテキストメニューから ［反映(コンフィグレーション)］ を選択します。
8. ［反映(コンフィグレーション)］ ウィンドウで ［データの更新と削除］ ラジオボタンにチェックを入れて ［OK］ ボタンを押下します。

10.4 利用方法

10.4.1 画面詳細

- トップメニュー画面より構成管理モニタメニューを押下しドメイン名を展開すると、構成管理項目のリストが表示されます。

図 10-15 構成管理モニタ 1

① 実行ユニットグループ

千手ブラウザで作成した実行ユニットグループが表示されます。

② 実行ユニット

実行ユニットグループに所属する実行ユニットが表示されます。

③ 管理対象ノード

実行ユニットに設定した収集元ノードが表示されます。

- 構成管理項目のラジオボタンにチェックを入れると収集履歴が表示されます。

  A) 画面上段の［構成管理項目］には構成管理項目に対する［今すぐ取得］や［転送（千手構成ファイルサーバへの転送）］用のボタンが存在します。また、構成管理項目の詳細情報や実行ユニット取得日時情報が表示されます。

  B) 画面下段の［収集履歴］では［収集履歴一覧］や［転送（千手構成ファイルサーバから DevOP DB サーバへの転送）］、［ダウンロード（DevOP DB に転送されたファイルのダウンロード）］用のボタンが存在します。その他に実行ユニットの収集日時やファイルサイズ、転送状況などの情報が表示されます。

図 10-16 構成管理モニタ 2

① 今すぐ取得ボタン

千手ブラウザで作成した実行ユニットを即時に実行します。

構成管理項目に指定したファイルを取得したい場合に押下をすることで、押下したタイミングのファイルを取得します。

! ［今すぐ取得］は実行ユニット単位で実行されます。そのため、実行ユニット内に複数の構成管理項目が存在している場合、「図 10-16 構成管理モニタ 2」のように構成管理項目でいずれかのラジオボタンが選択されている状態であっても、実行ユニットに定義されているすべての構成管理項目に対して［今すぐ取得］が行われます。

DevOP WEB アカウントに付与されているドメインリストの千手ブラウザアカウントが操作権限のない千手ユーザグループに属しているは、［今すぐ取得］、「転送(上記図の③に該当)」の実行は出来ません。

同じ実行ユニットに対して、複数の DevOP WEB アカウントで「今すぐ取得」を実行した場合、［「今すぐ取得」は現在実行中です。］と表示されます。
時間を置いて再実行をお願いいたします。

② 実行ユニットの実行結果
実行ユニットの実行状況と収集日時が表示されます。
［実行ユニット最後の収集日時］が取得したいタイミングの日時であること、［状態］が［成功］であることを確認します。

③ 転送ボタン
取得したファイルを千手構成ファイルサーバへ転送します。
［実行ユニットの実行結果］で［状態］が［成功］である対象に対して千手構成ファイルサーバへの転送を行います。

WEB アカウントに付与されているドメインリストの千手ブラウザアカウントが Users などの操作権限がない権限が設定されている場合は、［転送］の実行は出来ません。

④ 収集履歴一覧表示ボタン
収集履歴リストの更新と一覧を表示します。
千手構成ファイルサーバへの転送時、DB サーバへの転送時のそれぞれで押下することで［転送状況］のステータスが更新されます。また、［実行ユニットの収集日時］では取得したいタイミングであるかを確認することができます。

⑤ 転送ボタン
千手構成ファイルサーバに転送したファイルを DevOP DB サーバへ転送します。
［収集履歴一覧］で［転送状況］が［構成ファイルサーバー上］のステータスのレコードに対して押下します。

⑥　収集履歴一覧

1）　実行ユニットの収集日時

実行ユニットの収集日時が表示されます。ファイルをダウンロードする際に、取得されたタイミングを確認することができます。

2）　ファイルサイズ

DevOP DB サーバ上に転送されたファイルのサイズが表示されます。そのため、DevOP DB サーバ上に転送されていない状態では 0Byte と表示されます。

3）　転送状況

ダウンロードしたいタイミングのファイルがどこに存在しているのかを確認できます。ファイルをダウンロードするためには DevOP DB サーバに転送されている必要があります。

転送状況各ステータス

ステータス	説明
構成ファイルサーバ上	取得したいファイルが千手構成ファイルサーバ上に存在しています。ダウンロードするためには DevOP DB サーバへ転送する必要があります。
DB 転送完了	取得したいファイルが DevOP DB 上に存在しています。ダウンロードボタンよりダウンロードでダウンロードすることができます。
転送エラー	千手構成ファイルサーバから DevOP DB へのファイル転送に失敗しています。再度、「転送」を実施いただき、ステータスが変わらない場合は営業担当へお問合せください。

⑦　ダウンロードボタン

DevOP DB サーバに転送されたファイルに対応する選択ラジオボタンを選択し、ボタンを押下することでダウンロードすることができます。

［収集履歴一覧］で［実行ユニットの収集日時］が取得したいタイミングの日時であること、且つ［転送状況］が［DB サーバー転送完了］のステータスのレコードに対して、押下します。

10.4.2 利用方法

A) トップメニュー画面より構成管理モニタメニューを押下します。

B) 構成管理モニタ画面に表示されているドメインをダブルクリックし、ダウンロードする構成管理項目まで展開します。

図 10-17 構成管理モニタ 3

複数ドメインの情報参照権限が付与されている WEB アカウントで他ドメインの構成管理モニタを利用する場合は、画面右上の「 」ボタンからドメインの切り替えを行う必要があります。

C) 構成管理項目が表示されたら「今すぐ取得」ボタンを押下します。

図 10-18 今すぐ取得の実行

D) ［今すぐ取得］を実行すると［「今すぐ取得」の依頼に成功しました。］と表示されます。

E) ［今すぐ取得］の実行が終了後、「 」ボタンを押下すると、今すぐ取得に対する「状態」欄

と「実行ユニット最後の収集日時」欄が更新されます。

! 千手コンフィグレーションの収集スケジュールによって収集されたファイルをダウンロードする場合は、「今すぐ取得」の実行は不要になります。

F) ダウンロードしたいファイルの「実行ユニット最後の収集日時」欄が今すぐ取得を実行したタイミングであり、「状態」欄が成功していることを確認します。

G) 取得するファイルに対応する選択ラジオボタンを選択し「転送」ボタンを押下します。「転送」ボタンを押下するとファイルは収集元ノードから千手構成ファイルサーバへ転送されます。

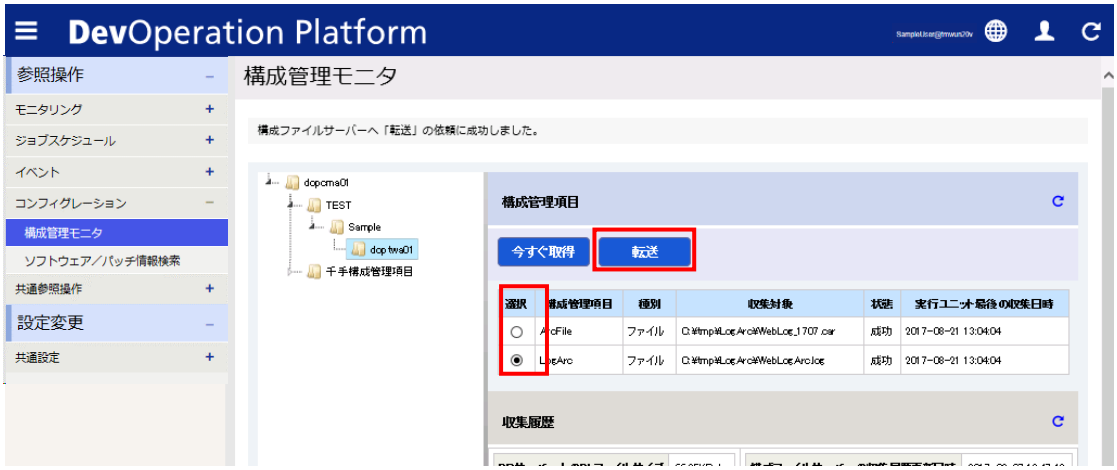


図 10-19 千手構成ファイルサーバへの転送

H) ［転送］を実行すると、［構成ファイルサーバへ「転送」の依頼に成功しました。］と表示されます。

I) 「収集履歴一覧表示」ボタンを押下し千手構成ファイルサーバの転送状況を確認します。

図 10-20 収集履歴一覧表示

J) 「収集履歴一覧表示」ボタンを押下した後、転送したファイルの「実行ユニット最後の収集日時」と「実行ユニットの収集日時」が同じであり、「転送状況」欄が「構成ファイルサーバ」上であることを確認します。

K) 収集履歴内の「ファイルサイズ」欄には、DevOP DB サーバに転送されたファイルのサイズが表示されるため、千手構成管理サーバ上に転送した時点では 0Byte と表示されます。

L) ダウンロードするファイルに対応する選択ラジオボタンを選択し「転送」ボタンを押下します。「転送」ボタンを押下すると、ファイルは千手構成ファイルサーバから DevOP DB サーバへ転送されます。

図 10-21 DevOP DB への転送

M) ［転送］を実行すると、［DB サーバへ「転送」の実行に成功しました。］と表示されます。

N) 収集履歴内の「転送状況」欄が［DB サーバー転送完了］と表示され、「ファイルサイズ」欄に転送されたファイルサイズが表示されます。

O) ダウンロードするファイルの「転送状況」欄が［DB サーバー転送完了］と表示されていることを確認し、対応する選択ラジオボタンを選択し「ダウンロード」ボタンを押下します。

図 10-22 ファイルダウンロード

10.4.3注意事項

A) ファイルのダウンロード

ダウンロードするファイルサイズの推奨は 1MB となります。

ダウンロードファイルの文字コードは UTF-8 となります。

ファイルパス、ファイル名に”@”が含まれていると本機能は利用できません。

ファイルパス、ファイル名に正規表現は利用できません。

B) 千手構成ファイルサーバ

千手構成ファイルサーバに転送されたファイルの保持期間の初期設定値は 30 日間です。保持期間の設定変更の方法は、［10.2.2　千手構成ファイルサーバの設定］をご参照ください。

C) その他制限事項

DevOP　WEB より複数アカウントで同一ファイルに対して同時に、［今すぐ取得］、［千手構成ファイルサーバへの転送］、［DevOP　DB サーバへの転送］、［収集履歴一覧表示］を行った場合には、後から実行したアカウントの構成管理モニタ上に、実行中である旨のメッセージが表示されます。時間を置いて再実行してください。

11　ﾌｧｲﾙ参照

ファイル参照

11.1 ﾌｧｲﾙ参照

11 章［ファイル参照］目次

11 ファイル参照 11-1

11.1 ファイル参照 11-3
11.1.1 ファイル参照機能概要 11-3
11.1.2 制限事項 11-4
11.1.3 ファイル参照範囲の設定方法 11-6
11.1.4 利用方法 11-8

11.1 ファイル参照

11.1.1 ファイル参照機能概要

- ドメインリストにて各ノードで参照可能なパスを設定することで、参照可能範囲内に存在するファイルを DevOP WEB から閲覧することができます。

! ドメインリストで設定した参照可能なパスは、ドメインに所属する全ての千手エージェントに適用されます。

11.1.2制限事項

A) UNIX

1. フォルダ名、ファイル名に以下を含むフォルダ、ファイルの一覧取得、参照はサポート外となります。

   ‘¥’、’/’、’:’、’*’、’?’、’”’、’<’、’>’、’|’、改行、タブ

2. 空フォルダへの一覧取得はサポート外となります。
3. 隠しファイルのみを含むフォルダへの一覧取得はサポート外となります。
4. 相対パスで指定されたシンボリックリンクの一覧取得はサポート外となります。
5. OS によってはファイル参照機能を利用するために対象の UNIX 千手エージェントにサービス提供元より提供されるコマンド（sj_filecat、sj_filelist）を配置する必要があります。
   本制限の詳細については、営業担当か devop-service@nri.co.jp へお問合せ下さい。

B) Windows

1. 千手バージョンが V2018 以下の Windows 千手エージェントでファイル参照機能を利用するためには対象 Windows 千手エージェントにサービス提供元より提供される（sj_filecat.exe、sj_filelist.exe）を%SENJUHOME%¥bin 配下に格納する必要があります。
   コマンドの取得については営業担当か devop-service@nri.co.jp へお問い合わせください。
2. フォルダ名、ファイル名に以下を含むフォルダ、ファイルの一覧取得、参照はサポート外となります。

   ‘¥’、’/’、’:’、’*’、’?’、’”’、’<’、’>’、’|’、改行、タブ

3. リンク（ショートカット、ジャンクション）の表示はサポート外となります。

C) 共通

1. ファイル参照先として指定可能なノードは千手マネージャ／千手エージェントのみとなります。
   千手センサー／セカンダリエージェントは対象外となります。
2. ファイル参照機能で参照できるフォルダ／ファイルの範囲は、千手稼働アカウントが参照できる範囲となります。
3. ファイル参照機能で参照できるフォルダ／ファイルは 100 件までとなります。
4. 参照可能なファイルは 10MB 以下となります。
5. 参照可能なファイルは、末尾から 500 行までの表示となります。
   表示上限を超える行を参照したい場合は、絞り込み文字列を利用の上、表示して下さい。
6. 参照可能フォルダ／ファイル指定時に以下の文字列は利用できません。
   '? '、 '"'、 '<'、 '>'、 '|'、 '; '、 改行、 タブ
7. 絞り込み文字列では以下の文字を利用できません。
   '; ' 、 '&、 ' ('、 ') '、 '|'、 '^'、 '<'、 '>'、 '? '、 '*'、 ' ['、 '] '、 '$'、
   '` '、 ' ' '、 ' " '、 '¥'、 '! '、 '{'、 '}'、 改行、 タブ、 スペース
8. 個人情報チェック機能を利用している場合、フォルダ名やファイル名もチェック対象となるため、個人情報が含まれると、参照することができません。

! 個人情報チェック機能は（OPTION）となります。

11.1.3 ファイル参照範囲の設定方法

- DevOP WEB からファイル参照する場合、ドメインリストにて参照可能とする範囲を予め設定しておく必要があります。

! 一般アカウントでログインした場合、ドメインリストメニューは表示されません。ドメインリスト設定時は管理者アカウントでログインする必要があります。

A) ファイル参照範囲の設定

1. 管理者アカウントで DevOP WEB にログインします。
2. ドメインリストメニューを押下します。
3. ［新規作成］ボタン、または、設定を行うドメインリストを選択して［変更］ボタンを押下します。
4. 設定を行うドメインに対応する［フォルダ／ファイル指定］ボタンを押下します。

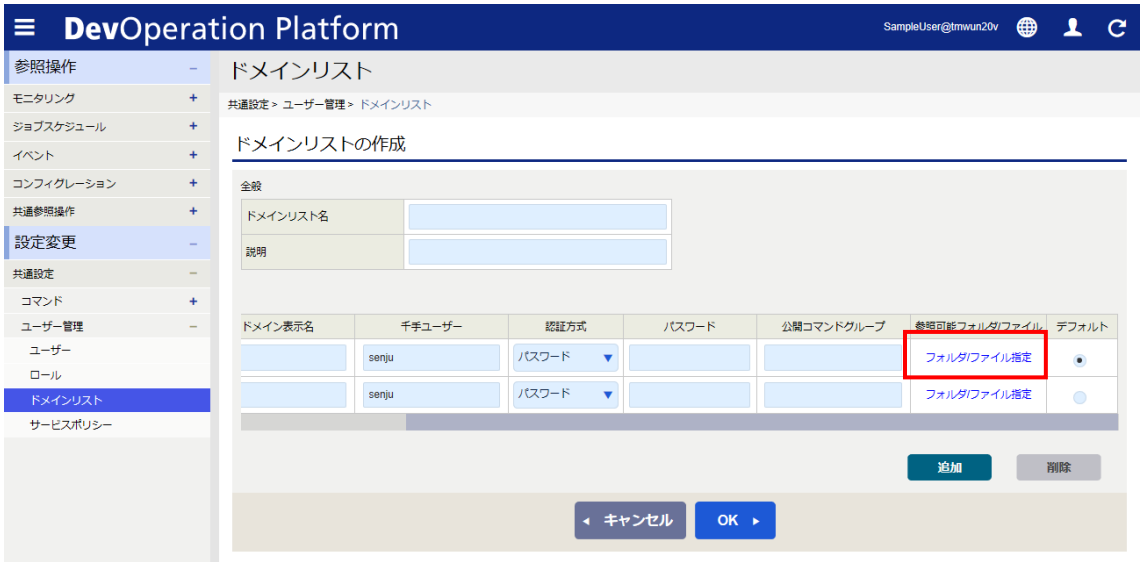


図 11-1 ドメインリスト設定画面

5. フォルダ／ファイル指定画面が表示されたら、［追加］ボタンを押下し［フォルダ／ファイル］欄に参照可能とするパスをフルパスで入力します。

図 11-2 フォルダ／ファイル指定画面

6. 参照可能とするパスが複数ある場合は、再度［追加］ボタンを押下し追加します。
7. 全てのパス入力が完了したら、［OK］ボタンを押下して［フォルダ／ファイル指定］画面を閉じます。
8. ［OK］ボタンを押下してドメインリストの作成または変更を行います。

! 参照可能とするパスを指定する際、フォルダを指定する場合は、末尾に［/］（Windows であれば［¥］）を付ける必要があります。ファイルを指定する場合には、［/］（Windows であれば［¥］）を付ける必要はありません。

! 参照可能とするパスを 1 行で複数指定する場合は、［;（セミコロン）］で区切って記載する必要があります。例：/home/senju/;/etc/

! 参照可能とするパスは 1 行につき 1024Byte 以内で指定する必要があります。

! 参照可能とするパスは 200 行まで指定することが可能です。

11.1.4 利用方法

A) ファイル参照方法

1. トップメニュー画面よりファイル参照メニューを押下します。

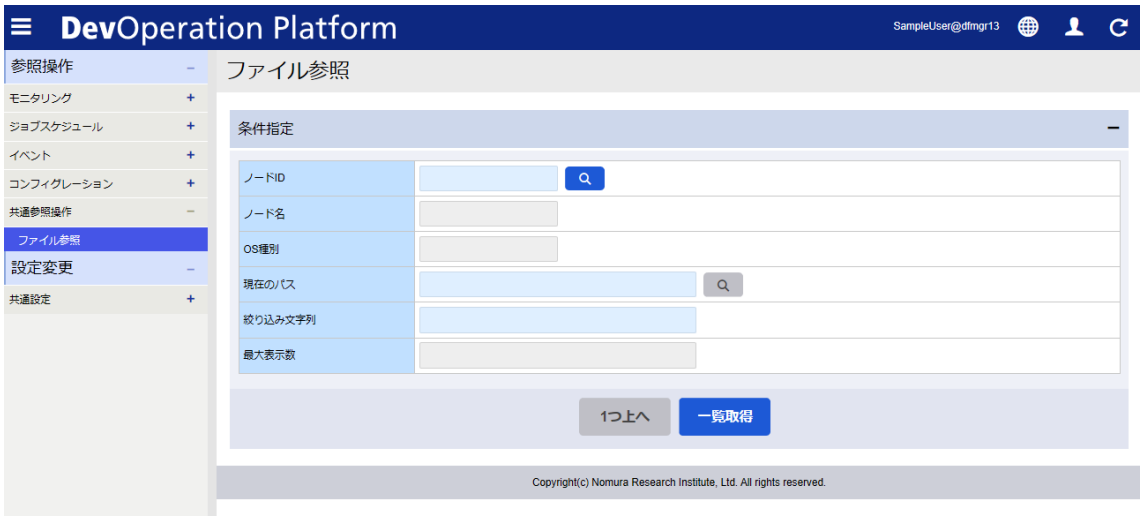


図 11-3 ファイル参照画面

2. ファイル参照画面が表示されたら、ノード ID の虫眼鏡アイコンを押下します。
3. ノードリスト画面にて［ノード ID］にファイルを参照するノード ID を入力し［検索］ボタンを押下します。
4. 表示されたリストから、ファイルを参照するノード ID を押下します。
5. ファイル参照画面に戻ったら、［現在のパス］にファイル参照先のフォルダパスを指定します。［現在のパス］に対応する虫眼鏡アイコンから履歴を検索することもできます。

! 現在のパスの履歴は 10 件まで保存されます。

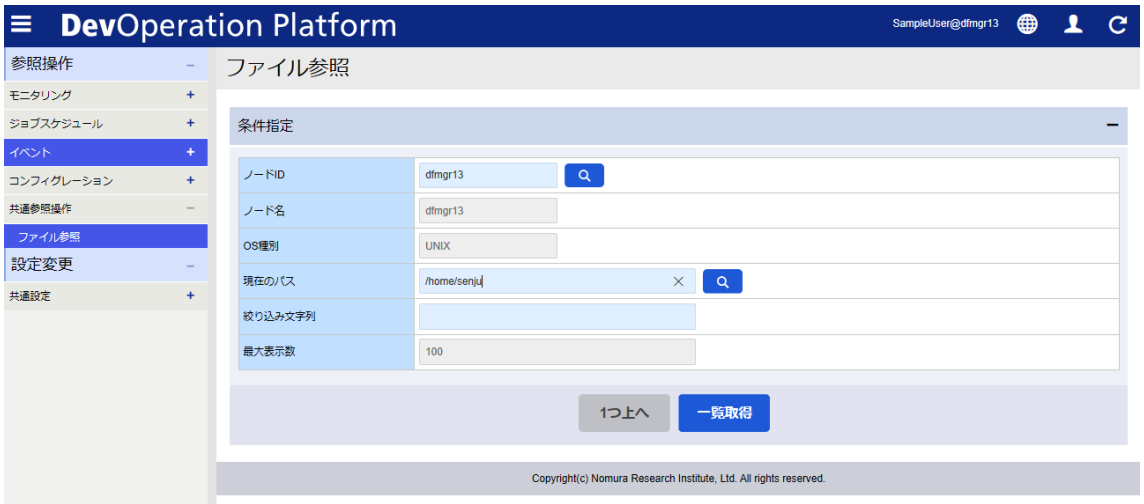


図 11-4 ファイル参照設定画面

6. ［一覧取得］ボタンを押下し、指定したフォルダパス配下のファイル／フォルダを表示させます。

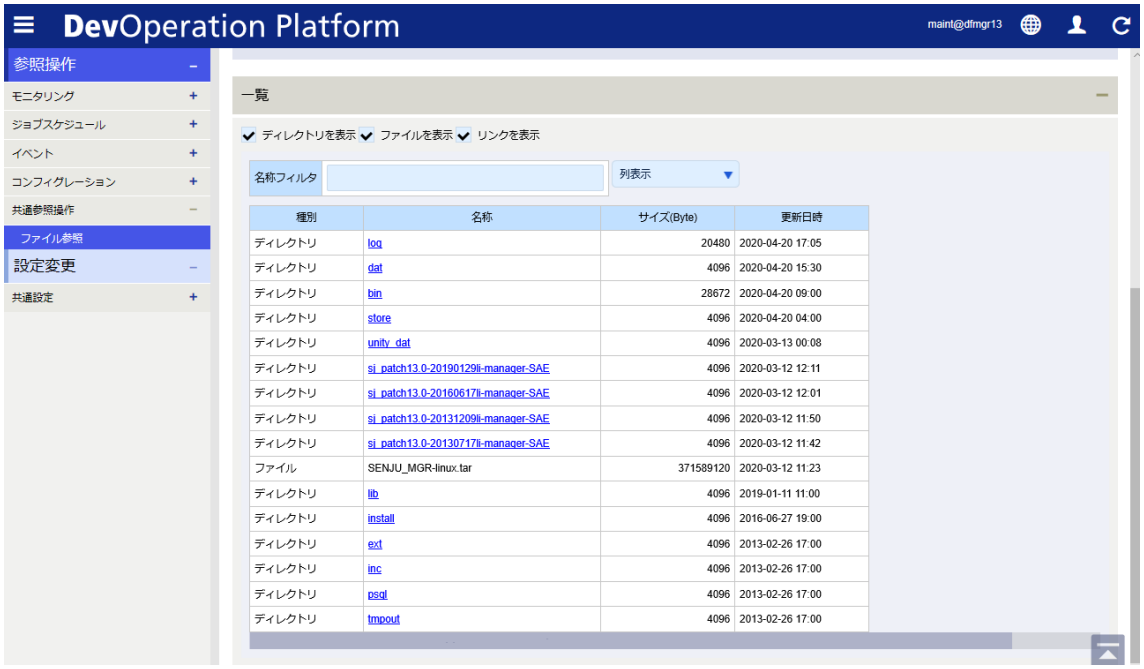


図 11-4 ファイル参照一覧表示画面

7. 一覧にフォルダパス配下のファイル／フォルダが表示されたら、参照するファイルの名称を押下します。
8. ファイル表示確認画面が表示されたら、以下の条件を指定して［表示］ボタンを押下します。

図 11-5 ファイル表示確認画面

ファイル表示確認	
表示ファイル	参照するファイルのパスが自動で入力されます。
絞り込み文字列	文字列を絞って表示させることができます。指定できる文字列には制限があります。詳細は、「11.1.2 制限事項」を参照してください。
末尾からの表示行数	表示する行数を指定できます。有効な値は 1～500 です。 Windows ノードのファイルを参照する場合は、表示行数の指定ができません。
文字コード	表示するファイルの文字コードを、指定しない、Shift-JIS、EUC、UTF8 から選択できます。参照するファイルに対応する文字コードを選択してください。

12　その他

その他

12.1 各種履歴データ保存期間の変更
12.2 参照不可能データの復旧

12 章［その他］目次

12 その他 12-1

12.1 各種履歴データ保存期間の変更 12-3
12.1.1 各履歴データ総量の見積もり方法 12-3
12.1.2 各履歴データ保存期間の変更方法 12-5
12.2 参照不可能データの復旧 12-6
12.2.1DevOP DB へ格納に失敗したデータについて 12-6

12.1 各種履歴データ保存期間の変更

12.1.1 各履歴データ総量の見積もり方法

- DevOP DB サーバの設定により、各情報の保存期間を以下のように設定しています。

  ・メッセージ履歴・・・12 ヶ月

  ・ジョブ稼働履歴・・・12 ヶ月

  ・モニタリング履歴
  　分サマリ・・・7 日間
  　時サマリ・・・40 日間
  　日サマリ・・・400 日間

! モニタリング履歴については、千手ブラウザ上で保存日数を指定する箇所が存在します。保存期間は DevOP DB サーバと千手ブラウザの保存日数を比較し、保存期間が短い設定が優先されます。

例：千手ブラウザにて、あるノードの［CPU 使用率（UNIX）］の保存日数を 100 日と設定を行った場合、各サマリデータの保存期間は下記の通りとなります。

・モニタリング履歴保存期間
　分サマリ・・・7 日間
　時サマリ・・・40 日間
　日サマリ・・・100 日間

- メッセージの履歴データ量

  メッセージ容量 × メッセージ数

  メッセージアクション定義が存在している場合、約 850 バイト

  メッセージアクション定義が存在していない場合、約 400 バイト

- 1 運用日付分のジョブ履歴データ量

  約 180 バイト × 1 運用日付に含まれるフレーム、ネット、ジョブの合計数

- 1 監視タスクの 1 日分の履歴データ量

  A) 分サマリのデータ容量

  約 500 バイト × 60 分 ／ 監視間隔 × 24 時間 × 監視対象数(※)

  B) 時サマリのデータ容量

  約 500 バイト × 24 時間 × 監視対象数(※) ×サマリ方法数

  C) 日サマリのデータ容量

  約 500 バイト ×監視対象数(※) × サマリ方法数

! プロセス別 CPU 使用率などのように、1 つの監視タスクで複数の監視対象が存在している場合があります。
1 監視タスクの監視対象数を確認する場合は、ノードモニタの [全監視タスク] タブで [監視タスク] 欄内の監視タスクを選択した際に、 [監視対象] 欄に表示される数をご確認ください。

12.1.2 各履歴データ保存期間の変更方法

履歴データ保存期間を変更する場合は、営業担当へご連絡ください。

1. 千手メッセージの履歴保存期間

   初期設定値は 12 ヶ月です。
   1 ヶ月から 24 ヶ月の間で変更できます。

2. モニタリング履歴データ保存期間

   初期設定値は下記の通りです。
   分サマリ･･･7 日間
   時サマリ･･･40 日間
   日サマリ･･･400 日間

   下記の期間で変更できます。
   分サマリ･･･1 日～7 日間
   時サマリ･･･1 日～40 日間
   日サマリ･･･1 日～400 日間

3. ジョブ稼働履歴データ保存期間

   初期設定値は 12 ヶ月です。
   1 ヶ月から 24 ヶ月の間で変更できます。

4. 構成管理モニタを使用し、DevOP DB に転送したデータの保存期間

   千手構成ファイルサーバから DevOP DB に転送したファイルが DevOP DB に保管される期間の初期設定値は 2 日間です。
   この設定は 1 日から 30 日の間で変更できます。

12.2 参照不可能データの復旧

12.2.1 DevOP DB へ格納に失敗したデータについて

- DevOperation Platform では、千手マネージャ-DevOP DB サーバ間の NW 障害などに起因して、千手マネージャから DevOP DB へのデータ格納に失敗する場合があります。
  DevOP DB へのデータ格納に失敗する場合、以下の障害メッセージが発生します。

  メッセージ ID

  !ANMD.*
  !DCM8.*
  !PEXD.*
  !RBAD.*

- DevOP DB への格納に失敗したデータについて、千手マネージャのログより復旧させていただきますので、データ復旧を希望される場合には千手マネージャのログ情報の送付をお願いします。

  ・送付先
  devop-service@nri.co.jp

  ・送付ログ

  Windows の場合
  %SENJUHOME%¥log 配下の全て

  UNIX、Linux の場合
  $SENJUHOME／log 配下の全て